

# 近畿双松会報

平成18年度会報  
(2006)

島根県立松江中学校  
島根県立松江高等学校  
島根県立松江北高等学校



# あさひたださす (赤山健児の歌)

西村房太郎 作詞

岩佐万次郎 作曲

あーさひ たださす そうしょう の  
てんらい むーねに ひかりあ り  
なーみに くだくる みかづき の  
かーげに こゆうの しんをみ る  
てんちの せいをーみにしみて  
せいきをのーぶる いちひやくねん

一、

朝あさひ暎直刺す双松の 天籟胸に光あり  
浪に砕くる三日月の 影に古雄の真をみる  
天地の精を身にしめて 正気を舒ぶる壹百年

二、

瘴煙じょうえん罩むる椰子の下 月に嘯く夕あり  
冰雪鎖す丘の上 北斗に吟ずる晨あり  
万里の風に浪搏ちて 大鵬の翼揮へよや

三、

嗚呼剛健と質実と 心の楯に執り持てば  
悪魔サタンの征矢も身にたたず 高くかか攀ぐる我旗の  
靈光迷路メイズの闇を射て 理想の郷をてらすなり

四、

稜威輝く日の本の 国の礎さし固め  
東洋平和を保つべき 使命を負へる我等なり  
責務は重く身は軽し 起てや赤山健男児

# さんみやくうかびて (松江高・松江北高等学校校歌)

土岐 善麿 作詞

高田 三郎 作曲

さわやかに ♩ = 100

*mf*

さん みやくうかびてはんとうみどりにさ

ざなみかがやくみずのみやこよ

*mp*

しんりのひかりを ともめゆくとき

*mf*

ちせいのそらはたかくひろくあ

おげばたーだし はずもふじ

一、

山脈浮かびて 半島みどりに  
 さざなみかがやく 水の都よ  
 真理のひかりを 求めゆくとき  
 知性の空は 高くひろく  
 仰げば正し 出雲富士

二、

郷土の歴史を 深くもたたへて  
 川風すがしく 渡す大橋  
 千鳥の城あと 街はさかえて  
 希望も新た かくて常に  
 自由の道を 進むべし

三、

健康ひとしく いそしみはげみて  
 世界の人たる 誇りにたたん  
 友情かわらず 胸をひらきて  
 こぞれりわれら 若く強く  
 松江北高 ここにあり

赤山の歌

- 一、春日の南赤き丘 その丘の上に育ちたる  
我が一千の男子等が 燃ゆる血潮に色どりし  
赤心の旗振りかざし 心を定めて立ちにけり
- 二、若駒いなゝき且つ踊り 放つ羽矢の末遠く  
生死の境を超脱し 如何なる敵も馳せ抜きて  
あわれ栄ある香も高し 桂の枝を手折りけり
- あゝ紅陵に(赤山応援歌)
- 一、ああ紅陵に正気あり 青春の子が熱血の  
もる手にかざす紅の 護国旗の色君見ずや  
わが当年のますらをが 鉄腕撫して立つところ  
宍道湖の空連勝の 覇業のはえに輝きぬ
- 二、干戈一度おさまりて 平和よしばし春の夢  
唯三尺の剣を撫す 丈夫の悲情幾春秋  
飛躍をまちて幽谷に 臥竜の思い幾春秋  
越年の花吾知らず 唯萱々の意気のと
- 三、されど高眠永からず 今壮快の晴いくさ  
激浪十里燦として 乾坤どよむときの声  
ああ戦はん勝ちいくさ 栄えの歴史を飾るべく  
渾身の血は躍るなり 戦はんかな友よいざ

目 次

ごあいさつ 近畿双松会会長 .....	山本 雅昭 .....	3
双松会会長 .....	松本 幹彦 .....	4
松江北高等学校校長 .....	佐藤 健治 .....	6
平成17年度近畿双松会総会 .....		7
平成18年度春期ゴルフコンペ .....		12
平成18年度歴史ウォーキング「山辺の道ウォーキング」.....		13
追 悼 .....		19
特集・ふるさと松江 .....		21
会員の寄稿 .....		26
おたより .....		39
クラス会だより (中61期、中68期、松高7期、松高11期、北4期).....		40
近畿双松会ホームページについて .....		48
近畿双松会報告 .....		49
会 則 .....		50
会員数一覧 .....		51
役員名簿 .....		52
組 織 .....		53
賛助金応募者 .....		54
会計決算書 .....		56
編集後記 .....		57
広 告 .....		58

# ごあいさつ

近畿双松会会長 山本 雅昭

本年も余すところあと1か月余りとなりました。

近畿双松会の皆様におかれましては、本年もご健勝でお過ごしのことと拝察し、お慶び申し上げます。

さて、「国家百年の大計」という言葉がありますように、100年という年月には大変な重みがございます。この100年を振り返りましても、地球規模においては無論、日本国内の変化は、ただ大きいというだけでは片付かないものがございました。そして今年、我々の母校松江北高等学校は旧制松江中学より数えて、創立130周年を迎えました。実に100年の1.3倍もの歴史を重ねております。また来年、近畿双松会は創立50年を迎えます。100年のちょうど折り返し点に立っているわけです。この長い年月の間当会が存続し続けることができたのは、会員の皆様の母校への、また郷里への深く強い思いがあつてこそだったと考えます。

ところで「継続は力なり」と申します。長い年月を重ね、さらに活力をもって続かせる「力」とは何が必要でありましょうか。

たとえば、大阪船場。ここは、太閤秀吉の時代から400年以上も続く古い商都、大阪の中心地区で幾世代も続いた老舗がたくさん、現在も“商”を続けております。私は長年、船場に程近い所で、商を生業としておりますので、船場の様子を常に肌で感じております。そして我々商人のなかでは「船場ほど変化と革新の激しいところはない」と言われております。つまり、昔からの“暖簾”だけにたよっての“商”は長く続かない。時代に即応した、あるいは時代を先取りした感覚がなければ、到底船場では生き残れないということなのです。

また、古都の印象が強い京都ですが、今日では、日本のIT産業の中心地となっております。京都の街全体が、ITのベンチャー企業を支えている、そう言ってもよいかと思えます。

このように国内・国外を問わず、旧くより繁栄を続け、生きながらえて来たものは、絶えず自己革新を繰り返してきたのではないのでしょうか。

我々の母校も、そして当会も今後50年、100年とさらに歴史を紡いでいくことでしょう。しかし、それをかなえるのもまた、絶えざる変革でありましょう。

ともあれ、楽しく活力ある近畿双松会を作るために力を注いでいかなばと考えております。

末筆ながら、当会運営につき、お世話下さった方々、また、数々のアドバイスを賜りました方々に心より御礼申し上げますとともに、会員の皆様が来年もお元気で楽しい日々を送られることをお祈り申し上げます。

# ごあいさつ

双松会会長 松本 幹彦

今年、松江北高等学校は創立130周年を迎える。このことに関する双松会行事などについては9月発刊の「双松会会報」に述べたので、ここでは省かせていただく。

130周年を契機と言うわけではないが、数年前から母校の歴史にかかわる資料を読み返している。読めば読むほど130年の歴史の重みを感じる。二三の事柄を紹介して、あいさつに代えさせていただく。

今から130年前の明治9年3月18日、我々の母校は松江市殿町に松江教員伝習校（明治9年10月に松江師範学校と改称）変則中学科として誕生した。跡地は現在島根県警察本部の敷地となっていて、道路に沿って「この地でラフカディオ・ヘルンが教鞭をとった」ことを記す案内板が設置されている。変則中学科の後、校名は松江北高等学校に至るまでに10回、校地も3回変わっている。「文部省年報・明治9年版」によると、明治5年から8年までに公立中学校は8校開校し、明治9年には松江教員伝習校変則中学科を含め11校が開校したと記されているから、母校は全国の公立中学校の中で極めて早い時期に開設されたといえる。最初の入学生は90名であった。修業年限は三カ年で、明治12年3月に第一回卒業式が行われたが、卒業生はわずかに3名であった。明治12年の入学生の中には、岸清一（元東京弁護士会会長・大日本体育協会会長・国際オリンピック委員等を歴任）・若槻礼次郎（元首相・大蔵・内務大臣等を歴任）の名前が見える。島根県庁の前庭にある2体の銅像は、上記お二人のものである。

明治30年5月、赤山に新校舎が竣工し、殿町時代は20年で幕を閉じた。皇太子殿下の赤山行啓があった明治40年、当時の校長西村房太郎先生は校訓を「質実剛健」と定めた。この校是は百年の歳月を経た今日まで受け継がれている。西村校長は「質実剛健」を校是とした理由を『回顧録』の中で、「松中の生徒は概ね頭脳が緻密でしかも着実勤勉……。唯強いて難を言うと、生徒は大人しい代わりに少々気力に欠けて消極的であったので、これさえ矯正すれば何処に出しても遜色がないと確信しつつ、生徒の心身鍛錬と元気の養成に重点を置き、質実剛健の校風を樹立せんと努めた」と述べておられる。

創立90周年記念事業の一環として、西村校長の揮毫になる「質実剛健」の石碑を建立することが決まり、昭和39年、そのお願いに諏訪秀富先生（松江東高等学校初代校長・元松

---

江市教育長、松中65期)のお供をして川崎市の西村先生宅を訪問した。先生は90歳を過ぎておられたが豊饒としておられ、快く引き受けてくださった。その時、お話の大半は二本松の由来、自らが作詞された「赤山健児の歌」にかかわるものであったと記憶している。横書きの「質実剛健」の碑の一つは、西川津校舎の玄関前のロータリーに、今一つは、昭和36年、松江高等学校の二分化によって誕生した松江南高等学校に置かれた。また縦書きの碑は二本松の横に据えられたが、現在は赤山校舎玄関前の「大正天皇お手植えの松」や「創立100周年記念碑」の近くに移されている。

昭和23年、学制改革によって中等学校は新制高等学校に衣替えをした。松江中学校は松江第一高等学校、西川津町の県立松江高等女学校は松江第二高等学校、母衣町の松江市立高等女学校は松江市立高等学校となった。翌24年、松江第一・第二・市立高等学校の3校は統合されて松江高等学校となったが、生徒数が2千名近くになったため一カ所に収容できず、赤山校舎を北校舎、西川津校舎を南校舎と呼び、引き続きそれぞれの校舎で授業が行われた。当初は統合といっても名目的なものであった。昭和25年10月、南校舎の増築工事が完了したので北校舎の生徒が移転し名実ともに統合され、53年に及ぶ第一期赤山時代は幕を閉じた。その後には松江市立第一中学校が向島町から移転してきた。

昭和41年、創立90周年記念双松会総会において、「赤山に健児練磨の殿堂を復活し、総力を結集し、来るべき母校創立100周年を目標に、故地における赤山精神再現の理想実現に邁進せんことを期する」という決議文が満場一致で採択され、移転改築期成同盟会が結成された。この背景には校舎の老朽化、都市計画による校地移転問題があった。昭和53年、赤山に新校舎が落成し、28年にわたる西川津時代が終わった。

昭和54年、西川津校舎跡地の西半分が「県立プール」、校庭であった東半分には「くにびきメッセ」と道路が建設されることが決まった。当時の松江高校・松江北高校同窓会は、県当局に「校舎移転に伴って校地は道路その他に転用されることになるが、この地に若き日を育まれた1万3千人余の卒業生は、あげて故地に限りない愛惜の情を寄せている。校地の一部を松江高校・松江北高校残礎の地として保存してほしい」との陳情書を提出した。曲折はあったが「県立プール」の敷地内「くにびき道路」寄りの一角を借用することができた。その場所へ西川津校舎玄関前の「質実剛健」の碑を移し、さらにその傍には佐藤春夫の詩の一節「若かりし日のわが夢ぞ そこに狭霧らう」を彫り込んだ記念碑を建立し、栄光の歴史を留めることとした。堀川沿いの書道・美術教室のあったあたりの風景は、今も往時の名残を留めている。

光陰矢の如し。今年で第二期赤山時代は西川津時代と同じ28年目を迎えた。

# ごあいさつ

松江北高等学校長 佐藤 健治

近畿双松会会員の皆様方には益々ご清祥の事と存じます。また、日頃から松江北高に対し変わらぬご理解、ご支援を賜り、大変ありがとうございます。

8月には、近畿一円を舞台に高校生の祭典インターハイが開催され、北高からも多くの競技に選手が参加いたしました。その折、近畿双松会の皆様方には会場まで足を運んでいただき、熱きエールを送っていただきました。世代を越えた深き絆を感じ非常にうれしく思いました。

また、先日は地元のケーブルテレビで“赤山ぐるり”という企画がありました。すくすくと育つ新生二本松、松本会長の赤山台地に寄せる思い、現生徒たちの日常などが紹介され、北高の今昔を知ることができるものでした。折しも、北高は創立130年という記念の年に当たり、資料を紐解けば、卒業生数3万8千人、明治から現在まで教育に携わった教職員数1千3百人と、数字だけからも歴史の重さを実感しているところでございます。

また、少子化の波は北高に及び、来年度は各学年8学級、960名定員となります。一方、市内3校の学区のあり方も平成20年度には大きな変化が予想されます。その中で本校の新たなあり方を模索していく必要があります。

どうか今後も松江北高を愛し、暖かく、また厳しく見つめ、ご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。

●●●●●●●● 平成17年度 近畿双松会総会 ●●●●●●●●  
式 次 第

平成 17 年 11 月 27 日 (日) 午後 2 時～

於 阪神百貨店 11 階 グリーンルーム

総司会 千葉 潮 副会長

### 1 部 総 会

- (1) 開式の辞
- (2) 校歌斉唱 赤山健児の歌  
さんみゃくうかびて
- (3) 物故者黙禱
- (4) 会長挨拶 近畿双松会会長 山本 雅昭
- (5) 来賓紹介
- (6) 議長選任の議
- (7) 事務局報告 近畿双松会事務局長 永江 幹夫
- (8) 会計報告 近畿双松会副会長 内田 一三夫
- (9) 監査報告 近畿双松会監事 小川 伸江
- (10) 閉式の辞

### 2 部 報 告

- 双松会近況報告 双松会会長 松本 幹彦
- 母校近況報告 島根県立松江北高等学校校長 佐藤 健治  
島根県立松江北高等学校教諭 藤原 泰樹

### 3 部 講 演 会 押田 良樹 常任幹事 司会

演 題 「投資あれこれ」

講師：北高 2 期 ファイナンシャルプランナー/技能士 内田 一三夫氏

### 4 部 懇 親 会

司会 千葉 秀二 副会長

- (1) 開式の辞
- (2) 乾杯の音頭 近畿双松会常任顧問 児玉 治利
- (3) 新入会員の紹介
- (4) 中締め・万歳三唱 近畿双松会特別会員(恩師)八木 幸治先生

以 上

◆◆◆◆◆ 平成 17 年度近畿双松会 総会 ◆◆◆◆◆

松本双松会会長挨拶



山本近畿双松会会長挨拶



永江事務局長より報告



佐藤校長より母校の近況を聞く



小川監事より監査報告



藤原教諭より母校の近況を聞く



会長・副会長勢揃い



報告を聞くみなさん





## 講演会「投資あれこれ」



講師 内田一三夫氏



## 懇親会



特別会員 八木先生よりご挨拶をいただいた



会報を開いて校歌斉唱



最多出席の松高 11 期生



特別ゲストの大学生のみなさん



先輩から激励を受ける大学生のみなさん



2 番目に多かった北高 1 期生組



カラー写真は、近畿双松会ホームページを  
ご覧ください  
<http://www.kinki-soushoukai.org/>

## ◆◆◆◆◆ 平成 18 年度ゴルフコンペ ◆◆◆◆◆

寺本尚由氏（松高 5 期）が 2 度目の栄冠

参加：23 名



平成 18 年ゴルフコンペ（第 26 回）は 5 月 19 日武庫ノ台ゴルフコースで行われました。

今回の参加者は昨年を 1 名上回り過去最高の 23 名となりました。今回の初参加は田中英明氏（松高 9 期）、三島薫氏（北高 7 期）のお二人でした。

好天に恵まれ心地よい新緑の中、熱戦が展開されましたが、松高 5 期の寺本尚由氏がグロス 90、ハンディ 14.0（ダブルペリア）ネット 76.0 の成績で平成 9 年 10 月以来 8 年 7 カ月ぶりに 2 度目の優勝となりました。2 位は川島道夫氏（松高 9 期）、3 位はゲスト藤城坦氏（松高 12 期藤城綾子氏夫君）でした。

プレー後のパーティ席上、年々参加者も増えつつあり、今後競技を一層盛り上げるため

「期別対抗」を行ってはどうかという提案がありました。各期のゴルフ愛好家の皆様、ぜひお誘い合わせの上参加してください。



優勝杯を山本雅昭近畿双松会会長から受け取る  
寺本尚由氏

カラー写真は、近畿双松会ホームページを  
ご覧ください

<http://www.kinki-soushoukai.org/>

# ◆◆◆◆ 平成18年度歴史ウォーキング ◆◆◆◆

## 山の辺の道ウォーキング

平成18年10月22日(日)

近畿双松会歴史ウォーキング 第1回行事

報告者 押田 良樹 (高11期)



前列左から新谷、押田、後藤、畑田、井狩、大島、村尾、植村(天理市ボランティアガイド)  
2列目左から土田、中尾、後藤夫人、内田、港谷家族、港谷家族  
3列目左から島田、千葉(潮)、千葉(秀二)、岩成、内田夫人、松吉、松吉夫人、永江、港谷、岡崎、加藤  
最後列左から森脇、木村

今年から新たに近畿双松会の行事に加わった「歴史ウォーキング」は10月22日(日)「山の辺の道ウォーキング」として実施された。参加者は松高5期から北高21期まで幅広く、家族を含めて26名となった。高校8期の加藤尚子さん、高校9期の岩成哲男さんは遠路松江からの参加である。天気は申し分のない秋晴れ、集合場所の近鉄桜井駅前を9時過ぎに皆元気よく出

発した。

今回のウォーキングには天理市ボランティアガイドの会の植村勝弥氏に同行をお願いし道中いろいろな説明をしていただいた。

桜井の町を抜け貯木場や三輪素麺の製粉工場などを横に見て行くと、やがて前方に三輪山の優美な姿が見え、ほどなく初瀬川(大和川上流)に出る。この近くに欽明天



仏教伝来の地にて

皇の磯城嶋金刺宮しきしまのかなさしのみやがあったといわれ、橋を渡ると「仏教伝来の地」の石碑と説明板があった。

ここで植村氏の最初の説明があった。仏教伝来の時期には538年（上宮聖徳法王帝説）と552年（日本書紀）の二説があるが、そのため同じ継体天皇の子である欽明天皇（母は大和系の手白香皇女）と安閑・宣化天皇（母は北陸・中部系の尾張目子媛）が対立して皇位が並立していたのではないかなどの論争を生んでいるという、最初から古代史の謎に迫る興味深い話であった。

このあたりは、最古の交易市「海柘榴市」うばいちの跡もあり古代の政治・経済・文化の中心地域だった。少し行くと海柘榴市観音がある。紫式部など平安の女流文学者は、長谷寺へ参る途中この観音に詣でたという。そしてこのあたりは古代の歌垣の行われた場所でもあり女性のストレス発散の場所であったらしい。

この地に因んだ有名な万葉歌に「紫は灰さすものぞつば市の八十のちまたに逢へる児や誰」があるが、入り口にあった今東光和尚の書になる歌碑は「灰」を「仄」と読んで「紫はほのさすものぞ……」となっていた。

また少し行くと右手に金屋の石仏があ

る。コンクリートの小堂の中に釈迦如来と弥勒菩薩の石仏が並んでいる。鎌倉時代のものであるが明治の廃仏毀釈のとき、このあたりの道端に放置されていたのを村人が移したそうである。石仏の向かい側に意外にも美術館がある。喜多美術館といってルノアール、ゴッホ、ピカソ、安井曾太郎、佐伯祐三等の作品がある。開館は10～17時で月・木が休館。入館料1000円。

山の辺の道から少し外れて左手に入り込んだ場所に崇神天皇の宮と伝えられる磯城瑞籬宮しきみずがきのみやがある。このあたりを「磯城嶋」という。ひっそりとしたたたずまいで、伊勢の皇大神は最初ここに祀られていたという。境内の脇に磐座いわくらがある。太古の人々は神は自然の岩や巨木に宿ると考えそれらの「依代」よりしろを祭っていたので特別大きな建造物としての神社はなかったとの植村氏の話である。神社が今のように立派な建物になるのは仏教が伝来し立派な寺院が建てられるのに対抗したためであるという。

次の平等寺に向かう道端に小林秀雄書になる「山邊道」の道標がある。同じものは3カ所あるようだ。平等寺、この寺はかつて大神神社の神宮寺として栄えたが、廃仏毀釈で廃寺となり、のちに再建されて現在に至っている。聖徳太子の創建とも伝えら



磯城瑞籬宮



平等寺

れている。朱色に塗られた寺院と周囲の豊かな緑が溶け合って明るい雰囲気がある。

鐘楼があり「平和祈願の鐘」とあったので記者は100円を納め突かせてもらうと「ゴーン」と重厚な音が響き渡った。

崩れた土塀、木々が鬱蒼とかぶさる道を過ぎるとやがて大神神社に至る。

昨年秋のバス行楽会で天川村へ向かう途中訪れたときは駐車場から参道を上ってきたが、今回は神社の右手から境内に入ったことになる。大神神社のご神体は三輪山なので本殿はなく拝殿の奥にある三ツ鳥居を通し三輪山を拝するという、原初の神祀りの様が伝えられている。祭神は大物主神であるが、この神はわが出雲の大国主神おおなむちのかみ（大己貴神ともいう）の「幸魂さきみたま・奇魂くしみたま」であるとされている。出雲と大和の神がなぜ結びついたのか興味あるテーマである。

近くには摂社の久延彦神社、狭井神社や大和平野が一望できる大美和の杜があるが時間の関係もあり省略し昼食休憩の場所桧原神社へ向かう。

道はいかにも「山の辺の道」の雰囲気が出てきた。ガイドの植村氏は元気に先頭を歩く。双松会の期でいうと松高1期の年齢であるが大変若々しい。

柿やみかん、茄子に枝豆などいろいろな



大神神社

果物や野菜を並べた無人店をよく見かける。

このあたりは本当に「ものなり」のよい所だ。

右手の三輪山からけもの道がおりていて猪のものらしい足跡があった。このあたりの猪は食べ物も多く恵まれている。

古色蒼然とした玄賓庵の門を通り過ぎる。ここは平安時代、玄賓僧都が隠棲したと伝えられる庵で謡曲「三輪」の舞台として有名とのこと。

やがて桧原神社に到着する。崇神天皇のとき、宮中に祭っていた天照大御神を豊鍬とよすき入姫命いりひめのみことに託してこの地に遷し、「磯城神籬しきひもろぎ」を立て祀った「倭笠縫邑やまとかさぬいのむら」との伝承がある。それで別名「元伊勢」と称される。その後、垂仁天皇の時、皇女倭姫命が新たに皇大御神を祭るにふさわしい地を求めて八咫鏡を持って各地を巡行することになり、大和の国を始め伊賀、近江、美濃の諸国を巡ったのち、伊勢の国の度会わたらいの地、五十鈴川のほとりへ「祠」を定めたのが伊勢の内宮（皇大御神）ということである。植村氏は説明用にたくさんの史料を持参しておられ、あとで頂戴したので参加者にコピーをお渡ししようと思う。

大神神社にあるが見られなかった三ツ鳥



山の辺の道らしくなってきた.....

居がここにあった。三輪山に向かって建っており珍しい形である。

西の方は大和国中くんなかが一望でき、特に春分・秋分の日くんなかに二上山に落ちる夕日の眺めの素晴らしさは有名である。

先日美しい穴道湖の夕日を見る機会があったが、ここにも一度はその時刻にやって来てみたいものである。今日は秋晴れだが霞がかかっていて大和三山はともかく二上山、葛城山ははっきりと見る事ができなかった。

時計も正午を過ぎたので境内の思い思いの場所で昼食となる。周りは柿畑が多く、のどかな雰囲気である。

昼食後鳥居の下の石段で記念撮影をする。今回は現地までは行かなかったが、ここから西へ降りて行くと池のほとりに倭健命やまとの作と伝えられる「大和は 国のまはろば たたなづく 青垣 山あおかき やまごもれる 大和やまと」



思い思いにお弁当を広げる



棟方志功の歌碑

し <sup>うるわ</sup> 美し」(の歌碑がある。筆者は川端康成であるがこれには逸話があるそうだ。川端康成は歌碑を建てる地を探して歩き、この地を気に入ったのだが、清書をする前に亡くなってしまった。そこで生前の原稿の中から字を拾い出して刻んだのだという。従って筆ではなくペン書きの文字である。

またさらに西に行くと内田康夫の浅見光彦シリーズ「箸墓幻想」の舞台になったホケノ山古墳、さらにもう少し先に有名なその箸墓古墳やまとととびももそひめのみことおあいちのはか(倭迹迹日百襲姫命大市墓)がある。大和の人は皆卑弥呼の墓と信じて疑わない(ように思われる)。

昼食休憩で元気を取り戻し松原神社を出発する。巻向川を少し迂回して渡ったあたりの岸に棟方志功の書になる歌碑がある。

歌は柿本人麻呂の「痛足河、河波立ちぬ <sup>あなしがわ かなみた</sup> 巻目の 由槻ゆつきが嶽たけに 雲居くもいた立てるらし」(だが、歌より棟方志功の人気なのか、石の表面は拓本の墨で黒ずんでいる。先ほどの川端康成書の「大和は.....」が人気ナンバーワンで次がこの歌碑とのことだ)。山の辺の道にはこのような歌碑が40くらいはあると思われる。歌碑に注目して歩けばさらに興味が深まることだろう。

右手の三輪山に別れを告げると巻向山、龍王山が姿を現す。その景観はまさに「た

たなづく青垣」、大和の原風景そのものだ。

このあたりでもう桜井から5キロ位は歩いている。道は起伏に富み曲がりくねっている。我々の郷里が出雲の国だということを知って植村さんは山の辺の道からはずれて東へ坂道を上り普段は案内しないところへ我々を導いてくれた。

そこは「相撲神社」。近くの穴師坐兵主あなしにいますひょうず神社の摂社で、出雲出身の野見宿禰のみのすくねを祀るところだという。

神社といっても社殿はなく鳥居だけであるが片隅に野見宿禰を祀る祠があり土俵の跡のようなものがある。そのほか境内はまばらに木の生えた草地という感じである。

ここで垂仁天皇のとき出雲から呼ばれた野見宿禰たいまのけはやと当麻蹠速が初めての天覧相撲をとり野見宿禰が当麻蹠速の腰を蹴って（殺して）勝ったがそれが相撲の始まりと伝えられている。

当時は格闘技のように蹴り合いも認められていたのだろうか。野見宿禰は出雲に縁の深い天穂日命あめのほひのみこと（高天原から国譲り交渉のため大国主命のもとへ派遣されたが大国主命に心酔してしまい3年経っても復命しなかったという）の14世の子孫であると伝えられ土師氏、のちの大江氏、菅原氏の祖先だと伝えられる。



相撲神社

出雲国造家だった千家、北島家の先祖も天穂日命といわれている（北島家の館があった松江の大庭にある神魂神社は天穂日命の創建と伝えられている）ので天神様とは親戚ということになる。

しかしこの野見宿禰、出雲風土記にも登場しないし地元での活躍の跡があまり窺われない（私の勉強不足かもしれませんが）ので出雲出身といってももうひとつピンと来ない。皆さんはどうでしょうか。

それにしても日本の相撲初代王者を出した島根県が第12代横綱陣幕久五郎（現在の東出雲町出身、1829～1903）以来横綱はおろかこれという力士を生んでいないのは寂しい限りだ。少年時代から幕の内の郷土力士を応援した記憶は皆無である。

さて、相撲神社同様話も横道にそれてしまったので山の辺の道に戻ることにする。刈り取りの終わった田が多いがまさに「黄金田」もある。休耕田にはセイタカアワダチソウだろうか大群落を見せている。これは太古には決して見られなかった風景だろう。

やがて前方左手に大きな古墳らしい地形が見えてきた。第12代景行天皇陵（渋谷向山古墳）で全長300mの巨大前方後円古墳である。



景行天皇陵



黒塚古墳で最後の説明を受ける

この陵は江戸時代の終わり頃まで第10代崇神天皇の陵とされてきたが、日本書紀に景行天皇は「倭国の山邊道上陵に葬りまつる」とあるのでここに比定し直された様である。このあたりには数多くの古墳があり、柳本古墳群と呼ばれている。

もう少し行くと第10代崇神天皇陵（行燈山古墳）がある。こちらは全長240m。

東側には櫛山古墳がある。こちらは全長160mの珍しい双方中円墳である。

崇神天皇陵の濠は元々現在より狭かったのだが柳本藩主（織田信長の弟有楽斎の子孫）が皇室崇拜を口実に幕府から濠の拡張工事資金を引き出し、すっかり領地への水の供給源を確保したそうである。今も昔も為政者は中央からカネを引き出す知恵に長けているようだ。

今回予定に入っていた長岳寺は時間の都合で見送り、最後の黒塚古墳へ向かう。

柳本陣屋の近くの濠に囲まれた小高い丘に登ると石室跡がコンクリートで示されている。

平成10年に三角縁神獣鏡が過去最多の33枚も出土したことにより一躍有名になった。卑弥呼が魏王から賜った鏡に違いないとか、いや国産のものだとか邪馬台国の所在に大きく関係することだけに熱い論争

を呼んでいる。丘の下には黒塚古墳資料館があり古墳の内部を再現して展示してある。

これで今回の行程は終わり、大変丁寧に熱心に案内をしていただいた植村さんに謝意を述べお別れし、近くのJR柳本駅に向かった。

天候に恵まれ古代のロマンと日本の原風景のような自然にも触れることができ、さらに歴史の勉強にもなった。そして双松会という絆でつながった先輩・後輩との交流は本当に楽しく有意義なものだった。

心地よい疲労感を感じつつ桜井線の電車に乗り込んだ。

#### 【今日の行程】

近鉄桜井駅 仏教伝来の地碑 海柘榴市観音 金屋の石仏 磯城瑞籬宮 平等寺 大神神社 松原神社（昼食） 相撲神社 景行天皇陵 崇神天皇陵 黒塚古墳

今回のコースは山の辺の道の南半分に当たります。次回は残る北半分、天理から長岳寺までを歩きたいと計画しています。

こちらのコースも天理教教会、石上神宮、夜都岐神社、竹之内・萱生環濠集落、そして今回行けなかった長岳寺と見所がたくさんです。

歴史、ウォーキング好きの会員の参加をお待ちしています。

カラー写真は、近畿双松会ホームページをご覧ください

<http://www.kinki-soushoukai.org/>

# 追 悼

長年にわたり当会にご協力賜り誠にありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

物故会員

(期)	(氏名)	(ご逝去年月)
50期	吉岡利晴様	平成18年5月
51期	馬場康三様	平成18年1月
52期	糀 喜久男様	平成18年4月
54期	児玉正一様	平成8年
54期	増田 毅様	平成16年
57期	中西英紀様	平成18年10月
59期	梅 良和様	平成18年6月
高1期	田代 尚様	平成17年
高5期	杵築弘晴様	平成18年7月

## 遺族便り

松中50期 吉岡利晴様

吉岡利晴は平成18年5月28日に死去いたしました。皆様によるしくおつたえください。

(吉岡様 ご家族よりご連絡)

松中52期 糀 喜久男様

平成18年4月13日死去いたしました。長い間お世話になり、ありがとうございました。

(糀様 ご家族よりご連絡)

松中59期 梅 良和様

暑さ厳しい折からお見舞い申し上げます。

残暑とは名ばかり 皆様如何お過ごしで

しょうか。

さて、父良和が去る6月27日急逝し、今月13日に七七日を滞りなく迎えさせて頂きました。

生前中のご交誼に家族一同心より厚く御礼申し上げます。

遺された私共、未だ至らないところ多く、どうぞ今後共、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

簡単ではございますが、茲にご挨拶申し上げます。

なお、末筆ながら皆様のご健勝のほど、お祈り申し上げます。

敬具

(ご子息 梅 章夫様より)

松高5期 杵築弘晴様

取り急ぎ申し上げます。

夫弘晴は兼ねてより病氣療養を続けて参りましたが、去る平成18年7月25日に永眠いたしました。

享年72歳でございました。

甚だ勝手ではございましたが、故人の遺志に従い、告別式は近親者のみにて執り行いましたことをご報告させていただきます。

故人が生前に賜りました御厚情に対し、深く御礼を申し上げますとともに、今後も変わらぬ御厚誼の程、宜しく申し上げます。

まずは略儀ながら書中にて御礼を申し上げます。

(ご令室 杵築慶子様より)



## 畏友・梅良和兄を偲ぶ

(59期)

山本 洋

梅良和様の訃報を受けたのは8月中旬のことであった。去る6月末にご逝去、49日忌を終えた旨のご通知をご令息から戴いたのである。

彼は松江中学から新居浜高工(旧制)を卒業後、日本国有鉄道(現在のJR)に入社し終生を国鉄のエンジニアとして過ごされた。昭和62年頃、国鉄民営化の時期に停年退職し、引き続きJRの系列企業であるミカド工業株式会社の取締役として数年勤務された模様である。

手許の近畿双松会会報を繰ってみると、

平成3年「古希を過ぎてわが日課はボヤキ」、平成4年「老懶の家事奮戦記」に始まり、平成10年「盆栽の健康管理」まで、ほぼ8年間にわたり毎回軽妙なタッチで老境の私生活を描いたエッセイを寄稿された。その後会報への投稿が途絶えたのは恐らく健康状態から外出が不可能となり、双松会の年間行事にも欠席の止むなきに至ったものと思われる。

数年前に令夫人に先立たれ、ご令息一家と共に暮らされていたらしいが「男やもめ」の侘びしさを身にしみて感じられたことと思う。今年1月の半ば頃に電話があって、体力の点から明年以降は年賀状を見あわせたいので悪しからずとのことであった。電話での会話からして体力・精神力ともに健常人と全く変わらないと私は思って、機会があれば軽い食事でも如何かと誘ったが外

出のできる状態ではないとのことでそのままになってしまった。

それはさておいて。

彼は大原郡大東町(現在は雲南市大東町と地名変更)の出身であり、ご父君は宍道町の素封家・木幡久右衛門様の輩下として、昭和の初期に島根県東部における政界の重鎮として活躍された若槻禮次郎氏(総理)、木村小左衛門氏(衆院副議長)といった方々の支援に努められたらしい。木幡久右衛門様はいうまでもなく近畿双松会前会長・和田亮介氏のご尊父であるが、そうした縁から梅兄は関西政界のお歴々による芸能界に馳せ参じて和田氏(竹号を和田真月と称される由)の見事な音曲にひとかたならず魅了されたとのことある。

以上、とりとめもなく蕪辞を連ねたが、今頃は故人も三途の川の彼方で久方ぶりの令夫人との邂逅に、手を執りあって現世<sup>うつしよ</sup>の思い出に浸っておられることだろう。

忽焉として冥界に去られた畏友・梅良和兄の霊に対し、謹んでご冥福をお祈り申しあげる。

合 掌



# 特集・ふるさと松江

## 高校総体応援記

(高11期) 押田良樹



予選スタート前の中山選手

母校の後輩を応援しようと近畿双松会会員有志が長居陸上競技場へ集結しました。

8月6日大会第5日目、陸上女子100mハードルに期待の中山ゆかり選手が出場します。

中山選手は昨年の全国総体で4位入賞、今年に入ってからは5月の県総体で14秒24、6月の中国高校選手権では14秒04といずれも大会新で優勝、7月に島根県で行われた日本ジュニア選手権でも14秒10で

4位入賞という成績を収めています。持ちタイム14秒04は今回の出場選手の中でも第3位にランクされるもので、決勝進出、3位以内入賞も十分期待できます。

応援に駆けつけたのは松高5期の寺本氏、北高4期松本氏、女性陣は北高3期二階堂さん(旧姓糸賀)、北高5期木島さん(旧姓中村)、この4人は陸上部OBです。他に北高8期渡辺氏と松高11期の記者押田、計6人でいずれも母校愛に燃える面々です。記者は母校の後輩を応援するのはあの甲子園センバツ出場以来、陸上競技を応援するのは初めてです。巨大な長居陸上競技場に圧倒され戸惑いながら、携帯で松本氏と連絡を取り合い、何とかゴール近くのいい場所に腰を据えました。さて、予選は全部で8組、各組の2位までプラスタイム上位者8名の24名が準決勝に進みます。中山さんは第2組、余裕の走りで(と見えま



声援を送るOB、OG碑

した) 沖縄の選手に次いで14秒34のタイムで2位。余力をもって予選通過、準決勝進出です。予選の中では7番目のタイムです。予選1位は埼玉栄高校の川船選手で13秒87、優勝候補で日本ジュニアチャンピオン北海道恵庭北高校の寺田明日香選手は14秒02で2番目でした。

松本氏は「中山ゆかり頑張れ」とプリントした段ボールを持参して掲げていましたが、果たして中山さんの目にとまったかどうか。でもゴール後の中山さんに声を掛けるとにっこりと笑っていました。写真班としてはこのシーンを撮らなければいけないところでしたが、技術未熟のため撮れませんでした。この日は真夏の太陽が照りつける炎暑で、中山さんのレースが終わると皆日陰のスタンドに避難しました。

準決勝までの間、男子4×400mリレー準決勝があり、大社高校が出たので応援しましたが、惜しくも3位で決勝進出はなりませんでした。

さて準決勝です。24名が3組に分かれて出場します。各組2位までプラスタイム上位2名が決勝に勝ち残ります。中山さんは第3組です。予選トップの川船選手は1組で13秒67、寺田選手は2組で13秒61といずれも実力を発揮、それぞれ1位で決勝進出を決めました。さて、12時40分、緊張のうちに第3組のスタートです。選手紹介で「第6レーン中国チャンピオン中山ゆかりさん」というアナウンスを聞き、先輩として誇らしくまた心強く感じました。スタートでフライングが続き何か悪い予感が。3度目の号砲でスタート、中山さんのスタートはよく順調にハードルを越えて行き8

台目を跳んでトップに併走していました。しかし9台目で僅かに抜き足をハードルに引っ掛けブレーキがかかって3位でのゴールとなってしまいました。タイムは14秒20、果たして3位以下の中で上位2名に入れるか皆ハラハラしながら発表を待ちました。しかし、14秒11、14秒13、14秒17の選手がいて残念ながらあと1歩というところで決勝進出はなりませんでした。

しかし、中山さん本当によくやった。OB、OGをこれだけ熱くしてくれたのですから。

長居の駅前で残念会の昼食をして折角だから決勝まで見ようと、不謹慎ながら一杯機嫌で再び競技場へ戻りました。決勝は予想通り寺田明日香選手が13秒54の大会新記録で優勝、2位は川船愛美選手で13秒71でした。中山さんの14秒20は4位に相当するタイムだったので惜しまれます。

そのあと注目の須磨学園小林祐梨子選手の出場する3000m決勝があるので引き続きスタンドに残りました。小林選手は最初からほとんど独走態勢、力強く美しいフォームに魅了されました。

炎天下のトラックに日頃の苦しい練習の成果を全力で出しつくそうと健闘する高校生の姿に感動を与えられた一日でした。

中山さん、これからもぜひ頑張ってください。先輩・後輩達を元気付けてください。

カラー写真は、近畿双松会ホームページをご覧ください

<http://www.kinki-soushoukai.org/>

## 松江の地名

(松高10期) 佐和田 丸

水と緑の美しい城下町、松江で3年ほど暮らしたことがある。ハーンの旧居にほど近い、越前は永平寺派の禅寺に下宿して、高校に通った。早朝5時の勤行で、木魚をたたく音で目覚めたのも、今は懐かしい思い出となっている。

水郷の名に違わず、いたるところに堀があり、静かなたたずまいであった。私はこの町が好きになった。今もそうである。第二のふるさととっていい。

ところで、松江の地名は、どうしてつけられたのだろうか。巷間では、1611年頃、堀尾氏の城主時代、中国の折江省の松江府の名を借りて、つけられたのをもちて嚆矢とするというのが、もっとも人口に膾炙している。

松江府が、ちょうど松江と同じように、西湖に臨み、風光明媚なところであったこと、そのうえ、宍道湖と同じように、立派なスズキがとれ、ジュンサイを産するところまで似ていたからだという。これを誇りに思う松江っ子も少なくない。

折江省の松江府は、今の上海市の一地区。他国の一都市の、それも、その中の一行政区名をもって、市名とするのは、いかがなものか、あまり褒められたはなしではないのではないか、とと思っていた。ところが、堀尾公が来る前から「松江」の地名があっ

たという、私にとっては、欣喜雀躍すべき説があらわれた。

松江新大橋の南詰にある白潟神社の、元徳2年(1330年)に掲げられた棟札に「雲州意宇郡松江村白潟神社」としてあるというのである。これが正しいとすれば、堀尾公が松江をひらく以前に「松江村」という小さな集落があったことになる。

私の在住中、まだ湖岸に松が美しい枝をのばしていた。今は、北松江も嫁が島付近もきれいに公園化されている。ずーっと昔は、今の松江の湖岸一帯に、美しい松林がならび、その妍を競っていたにちがいない。そして、人々は「松林の美しい入江」として、「松江」の地名を考え出したのが、その濫觴<sup>らんしょう</sup>ではなからうか。

あくまでも、私の推測の域をでないが、十分、考えられることだし、そうであって欲しいとも思う。大阪の、野江、深江、海老江、若江なども、おそらく同じ伝でつけられたのではなからうか。



# 双松会会員 7クルーが 力漕

(高11期 押田良樹)

松江の夏の風物詩としてすっかり定着した市民レガッタが7月29日30日の両日大橋川で開催されました。男女とファミリー、ジュニア、シニアの5部門に284クルー、約1800人が参加し優勝を目指して力漕しました。

55歳以上のシニアの部では従来からの常連である松江艇友会（松江中学・松江高校ボート部のOBの会）2クルー、松高2期2クルー、松高7期クルーに加え、新た

に松高11期2クルーが初参戦、参加12クルーのうち双松会員クルーが計7クルー参加し、日頃の練習の成果を競いました。

各クルーそれぞれ力漕しましたが、松江艇友会C、松江艇友会白雲、松高2期「双松」と松高7期の4クルーが決勝に進出しました。シニアの部の成績は下記のとおりです。

それにしてもボートは年齢と関係ないようで65歳の若手11期は69歳7期、74歳2期の先輩期に兜を脱ぐ結果となりました。しかし11期はまだ結成後半年ほどですので、「これから練習に励み経験を積んで行けばいずれ両先輩期に対抗できる」との意気込みを表明していました。

なお松江艇友会C（ボート部OBの60歳台クルー）は秋に静岡県で行われるねんり

## 第23回松江市民レガッタ 平成18年7月29日・30日 レース結果

### シニアの部 予選1組

1	松江艇友会C	1'10"03	シニアの部決勝へ	ボート部OB60歳台クルー
2	松高2期「双松」	1'13"80	シニアの部決勝へ	松高2期（昭和26年卒）のクルー
3	松高7期クルー	1'24"57	シニアの部決勝へ	松高7期（昭和31年卒）のクルー
4	松高士「椿」	1'25"20	7～12位決定戦へ	松高11期（昭和35年卒）のクルー
5	こぶ白鳥	1'27"71	7～12位決定戦へ	堀川遊覧船船頭さんのクルー
*	松江スペロー会マスターズ	1'10"55	オープン参加	

### シニアの部 予選2組

1	名大艇友会 迷漕隊	1'04"56	シニアの部決勝へ	名古屋大学ボート部OBクルー
2	松江スペロー会シニアレーシング	1'08"70	シニアの部決勝へ	県庁スキー同好会のクルー
3	松江艇友会 白雲	1'14"88	シニアの部決勝へ	ボート部OB70歳台クルー
4	松高2期「紅陵」	1'25"49	7～12位決定戦へ	松高2期（昭和26年卒）のクルー
5	松高士「桜」	1'34"14	7～12位決定戦へ	松高11期（昭和35年卒）のクルー
6	チーム「ジージーズ」	1'55"56	7～12位決定戦へ	（財）しまね産業振興財団の職場仲間

んピック全国大会に島根県代表として出場  
予定です。

シニアの部の成績は下記のとおりです。  
(山陰中央新報サイトデータより加工)

なお全体の成績は山陰中央新報の下記ページに掲載されています。

<http://www.sanin-chuo.co.jp/pdf/result2.pdf>

松江舟唄 歌 長山洋子

作詞 廣田衣世・藤岡大拙  
作曲 杵屋五司郎  
編曲 伊戸のりお

松江お城のぼんぼりが  
ひとつふたつと灯るころ  
桜吹雪の石段を  
ふみしめふみしめ花に酔う  
ああ松江 堀と翠の城下町  
ここでちよっこし たばこして  
お茶を一服 どげねすか  
茶の湯大名 不昧公  
お待ちかねです 明々庵  
ああ松江 堀と翠の城下町  
江戸の香りにつつまれて  
旧き町並み 歩くととき  
ふと目を閉じて 聞き入れば  
カラコ口橋の下駄の音  
ああ松江 堀と翠の城下町  
静かな朝靄 宍道湖に  
憩う水鳥 ここかしこ  
小舟ぐるぐる輪をかいて  
じよれんいつばい しじみ採り  
ああ松江 堀と翠の城下町

シニアの部 7 ~ 12 位決定戦

7	こぶ白鳥	2' 07" 74	
8	松高士「椿」	2' 11" 61	
9	チーム「ジーゼズ」	2' 19" 24	
10	松高士「桜」	2' 21" 74	
11	松高2期「紅陵」	2' 42" 92	
*	松江スペロー会マスターズ	1' 59" 45	オープン参加

シニアの部 決勝

1	名大艇友会 迷漕隊	1' 44" 36
2	松江スペロー会シニアレーシング	1' 54" 00
3	松江艇友会 C	1' 56" 99
4	松江艇友会 白雲	1' 57" 79
5	松高2期「双松」	1' 58" 43
6	松高7期	2' 08" 40

# 会員の寄稿

## 日本の秋

(高1期) 竹内 一郎

秋しずか稲刈り終えし山<sup>かい</sup>峡に  
妖しき色の彼岸花ゆれ

里の秋しんと静まり寂しくも  
この平和つづけ祈る思いに

里山はなつかしきかな秋日和  
そこにも近く熊の現わる

<sup>やまなみ</sup>山脈のひだひだにある集落も  
かやぶきの家無く思い出の中

<sup>せわ</sup>忙しき世自然の恵み忘れしか  
心癒やすは農の道かも

(2006年10月)

## 「男たちの大和 YAMATO」 ロケ地鎮魂の旅

(高2期) 千葉 新一

平成17年12月、映画「男たちの大和」が封切られ年配者だけでなく若い人の観客も多いと話題になった。

私も伊丹のシネ・プレックス、そして池田の映画館へと二度足を運び強烈なインパクトを受けた。そして翌3月、そのロケ地、尾道と呉へ鎮魂の旅に出掛けた。

少年の頃の記憶も甦り60数年前の回想に耽っている昨今である。

昭和17年6月、小学校4年だった私は松江市南殿町の三河理髪店で散髪(松江弁でザンパツ)していた。臨時ニュースで大戦果が報じられている。ミッドウェーで海戦の大勝利をラジオでは伝えていたが、事実は加賀、赤城等4隻の主力空母を失うという大敗北であった。この作戦はミッドウェー島を攻略し、更にホノルル攻撃の足場を確保するという、山本五十六連合艦隊司令長官の立案であったが、かなりの反対論も

あったようである。

その後の戦況はガダルカナルの撤退に始まる防衛戦の後退に次ぐ後退が続き、捷三号作戦（台湾及び南西諸島方面作戦）にまで追い詰められていた。

私はあくまでも大本営発表の報道を信じ、我が連合艦隊の主力は温存され、千島列島周辺に待機中と思い込んでいたが、一方では連日、美保航空隊基地から出撃する特攻機が夜空の松江市上空を西進するのを見て制空権を失い、本土決戦が迫っているとも理解していた。

そしていよいよ大和特攻艦隊の出撃となる。伊藤整一中将を司令官とする第二艦隊は旗艦大和以下巡洋艦「矢矧」駆逐艦「夕月、涼月、磯風、浜風、雪風、朝霧、初霜、霞」の10隻。味方航空機の援護もない中を水上特攻隊として昭和20年4月6日夕刻、徳山三田尻沖を出撃した。片道だけの燃料での特攻と伝えられてはいるが、大和でも4000トン（満載時6300トン）矢矧以下は満タンで出撃しており内地への帰還は可能であった。

4月7日、午後米軍機第1波200機攻撃で魚雷、艦爆の被弾を受けたがまだ自走している。第2波150機の襲来によって左舷への集中攻撃を受け午後2時23分、北緯30度43分、東経128度4分の地点へ大爆発と共に沈没した。

基準排水量6万5千トン、46センチ主砲9門、最大射程42キロ（東京駅 大船間の距離）を誇った世界最大、最強の戦艦であった。

角川春樹氏らの「海の墓標委員会」によって昭和60年7月31日に発見され、今も尚東シナ海の水深350メートルに眠っている。3千余名の乗組員のうち駆逐艦によって救助されたものはわずかに2百余名、10隻の第二艦隊で佐世保に帰投できたのは4隻の駆逐艦のみであった。

今回の旅で訪れたロケ地の一つ尾道の日立造船向島工場のドックには艦首から190メートル（全長263メートルの70%）の模型船体が鉄鋼、合板、FRPで構築され、40メートルの船幅、15メートルの艦橋、更に主砲、高角砲、機銃を備えた勇姿が再現されていた。高角砲、機銃の各一基は作動可能であり映画ロケではそれら対空砲火が火を吹いている。51メートルもあった艦橋部分も映画では最新のCGで合成されている。

呉では大和を建造した旧海軍工廠ドック



昭和20年4月7日 戦艦大和の戦闘シーン  
「戦艦大和図面集」より（装画 生瀬範義）

(現IHIドック)を歴史の見える丘から展望し、また旧海軍基地では「戦艦大和戦死者碑」を拝礼、そして大和ミュージアムでは十分の一の大和の模型、零戦、回天、海龍の実物資料を見学した。

疲れた旅を終え独りでしみじみと戦時、戦後に思いを巡らす。戦争には学徒動員として加わってはいたが、年齢未達で軍の学校へは進んでいない。国への想いは私達の世代では、独特の何かが内包されているよ

うに思える。女性とも先輩方とも異質な熱いものを感じるのである。

今回の旅は60数年前の一途な、ひたむきであった少年時代に立ち返らせてくれた貴い旅であった。

参考資料

- 「戦艦大和図面集」 ヤヌス・シコルスキー著
- 戦艦大和ホームページ
- 「戦艦大和 発見」 辺見じゅん・原勝洋編
- 「特攻大和艦隊」 阿部三郎著
- 「男たちのYAMATO」映画パンフ

【付表1】戦艦大和の概要 (S.20.4月 天一号作戦時)

全長	263.0メートル	最大幅	38.9メートル	排水量	基準65,000トン	満載72,809トン
最大速力	27.46ノット					
火器装備	・主砲 46センチ×9門 3連砲塔 ・副砲 15.5センチ×6門 3連砲塔					
	・高角砲 12.7センチ×24門 2連装砲架					
	・機銃 25ミリ3連装 50基 150挺 25ミリ単装 26基 26挺 13ミリ連装 2基 4挺					
艦載機	零式艦上観測機 2機(当初は6機)					
探信儀	21号レーダー 2基 22号レーダー 2基 13号レーダー 2基					
	・球状艦首(バルバス・パウ) 船殻の水防区画 1147個(浸水対応)					

【付表2】戦艦大和の艦歴

昭和12年11月4日	呉海軍工廠にて起工
昭和15年8月8日	進水
昭和16年12月16日	就役「長門」「陸奥」からなる第一艦隊第一戦隊に編入される
昭和17年2月12日	連合艦隊の旗艦となる
昭和18年2月11日	姉妹艦「武蔵」が旗艦となる
昭和18年12月25日	トラック島付近で米軍潜水艦の魚雷に被弾
昭和19年1月16日	呉のドック入り修理と大改造 15.5センチ副砲2基を撤去 12.7センチ高角砲6基 3連装機銃も追加装備 レーダーも増強
昭和19年6月	呉海軍工廠にて更に対空砲火を増強
昭和19年10月24日	サマール沖海戦で主砲を初めて発射 米軍護衛空母1隻 駆逐艦1隻を沈没させた
昭和19年11月23日	再度対空砲火を増強 総計180挺を装着した事となる
昭和20年4月6日	天一号作戦 出撃
昭和20年4月7日	午後2時30分 6000メートルに達する大爆発によって沈没

# 浜日傘

(高2期) 栢谷 崇

一昨年秋、約50年ぶりに、学生時代、教養課程の寮で同室だった仲間5名と、一夜、京都で再会する機会があった。それと前後して、もう少し仲間の輪を広げて合同文集を、という企画が進められ、結果、私は、昨秋、B5版で13ページの「句文」を出稿することとなった。

今回、恥ずかしながら、その稿より適宜数句を選び、ご披露させていただくこととした。私は句歴だけは徒らに永いものの、その間、格段に精進したわけでもなく、また、特定の師に就くこともなかった。若い頃から「有季定型」にはこだわらず、詩は専らのびやかに歌うものと心得て、今日に至った。ご諒承願いたい。

## 子と走る

私の最初の勤務地は関西であったが、昭和38年、愛知県豊川市に転勤。その後は同地に定住することとなった。

町そのものは、豊川稲荷のある、かなり保守色の濃い一地方都市だが、広く東山河及びその周辺に目を移せば、海、山、川、湖に、さらに温泉も近く、自然環境に恵まれた、まことに心休まる土地である。

伊良湖にはつよき浜風子と走る

(昭和45年)

昭和ひとけた生まれの父親なので、子育てに熱心であったとは、到底いいがたい。それでも、海の方でいえば、当時、小学生だった娘を連れて、御津町大塚海岸での潮干狩りや渥美半島江比間海岸の海水浴などに出かけたものであった。

ひと遊びした後、浜風に吹かれながら一緒に食べた握り飯の味は、とにかく忘れられない。

子の夢は早や月世界句座長<sup>た</sup>けぬ

(昭和46年)

ほぼ同じ頃、市内の或る俳句グループに入れていただいていた。何しろ世は高度成長期にあり、私も「滅私奉公」、仕事中心の日常であったので、決して真面目な会員ではなかったが、ときたま、夜の句会には顔を出すようにしていた。

その席で、出句の互選をしながら、なぜかふと娘の寝顔が浮かんだりした。月の明るい晩であった。

山茶花の緋も舞ひ舞へや嫁ぐ子に

(平成3年)

時移ってひとりっ子の娘は隣県に嫁し、豊川の草屋は、再び妻との二人暮らしに戻

った。

### 能登半島

石川県七尾市に『七つ尾』という半年毎に刊行されるタウン誌がある。昭和の末年、同地に勤務中、ふとしたことから、同誌の編集長と面識を得、県外の方なら是非にと、雑文を書かされるハメとなった。

当時、単身赴任の無聊を慰めるために、日記代わりに駄句を書きつけるようにしていたのだが、取り敢えず、その中から数句を選び、句文にまとめてみた。

### 魚まつる碑ありて雨の海門寺

(昭和63年)

妻が来た折には、つとめて郊外などを出歩くようにしていたが、ある日曜日の午後、雨もおおよそ上がったのを見はからって、近所へ散歩に出かけた。

途中、海沿いの道に程近い寺院に立ち寄ったところ、境内に魚の供養碑が建てられていた。さすがに、漁業で生業なりわいを立て、信仰心の厚い門徒宗の土地柄と、今もって印象深い。

その頃の主な散策先としては、七尾城跡、石動山、能登島、能登半島内浦海岸、同外浦海岸などであつたらうか。

半島突端の祿剛崎では、灯台の傍らに山口誓子の句碑があり、晴れた日には、立山連峯や佐渡ヶ島が遠望できる。

### ひぐらしが鳴く奥能登のゆきどまり

(誓子)

松本清張の作品『ゼロの焦点』の最後の舞台「ヤセの断崖」は、外浦の能登金剛・関野鼻近くにある。夏場でも身震いするような絶壁である。

### 風蒼く

文弱の徒、である。生徒、学生時代には、ひととき、図書部、俳句研究会などに籍を置いた。しかし、別に文才があつたり、詩精神が横溢していたわけではない。ただ、漠として文学の世界に親近感を覚えたというに過ぎない。

### 風蒼く文弱の徒の曝書かな

(平成4年)

かつて、同窓会の会誌や文集の編集をお手伝いしたことがある。

まず、学生時代のゼミ同門会の会誌だが、昭和30年から今日まで、絶えることなく年1回発行されており、その編集は、卒業年次順に各回生が輪番で担当することとなっていた。

平成4年、私どもの回生に、その中でも実務は私に、その任がまわって来た。従来軌道から会誌の骨格はほぼ定まってお

り、編集担当の仕事は、主に原稿集めと校正だと聞かされていたが、現役の会社勤めのかたわら、実質ひとりでこれをこなすのは、正直言って重荷であった。

しかし、予想以上に順調に送られて来る原稿を見ていると、原稿集めは、やはり人脈であることを実感させられた。他方、かなりの頁数となる原稿の校正は、滞ると、たちまち、連夜、深更に及ぶことがあり、これには泣かされた。

暫くして、平成13年、卒業50周年を記念して、関西地区高校同期生会の文集を出すこととなった。編集責任者は、そのまま提案者の私に振られてスタートしたものの、何しろ会員数が少なく、編集経験の乏しさから、果たしてどのようなものが出来上がるのか、危ぶまれたが、何とか諸事情を克服して無事発行に漕ぎつけた。

幸い、会誌、文集ともに出来映えが良いと、予期せぬ評価をいただいた。思えば、まことに労多き作業であったが、ご協力くださった各位にあらためてお礼を申し上げたい。

いま、拙宅の玄関に2枚の画が掲げてある。1枚は神戸の異人館「うろこの家」を、もう1枚は大阪・中之島の「ライオン橋」を描いたものだ。それぞれ会誌「襄山」、文集「みかづき」の表紙を飾った原画である。

## 晩学

申すまでもなく、老後をどう生きるかは、

前半生に劣らず、人生の大事である。そして、世は「生涯学習」の真っ盛り。要は、人間死ぬまで一学徒、の覚悟ありやの一点に尽きると思うのだが、現実には、そこまでの意識の徹底している人は何人いることか。

諸講座で、しばしば、江戸時代の学者、佐藤一斎の「老いて学べば死して朽ちず」（『言志四録』）の言が引かれるのも、このことをよく物語っているのではあるまいか。

晩学<sup>でむし</sup>や蝸牛<sup>うわ</sup>はひろき石路の葉に

（平成11年）

代表的講座でいえば、私は、「あいちシルバーカレッジ」に1年間通学し、また、「愛知県民大学講座」を数年間受講した。いずれも広く一般教養を培うには有意義な経験だったと思うが、最後に一番印象に残った講義は、と質ねられれば、やはり、自分が最も関心のあるものに落ち着く。

前者であれば、元高校長の俳句入門講座、後者では、某女流芥川賞作家の文学談義であった。一語も洩らさじと耳を傾けたが、双方とも何よりも内容が充実しており、話術も個性的で、聴き手を飽きさせなかった。

私は、ただ徒らに群れるのは好まないが、このような機会を通じて、何人かの心の通い合う知己を得られたのは、まことに貴重であった。お互い根底に共通の基礎能力があって、気持に響き合うものがあつたからであろう。

生あるうちに、おのれとは一体何ほどの

者であったのか、おぼろげながらも見極めておきたいとの思いから、その一端として囲碁段級位認定（実戦）と漢字能力検定を受けてみることにした。結果として、囲碁は平成13年、日本棋院から三段の、漢字は同15年、日本漢字能力検定協会から準1級の認定をいただいた。

日昏れて道はるかなれど、これからも集中力が保てるのであれば、前者は四段以上を、後者は1級を目指し、精進を重ねたい。

（平成18年8月）



## 老母の介護

（高10期）佐和田 丸

母は、明治・大正・昭和そして平成と生きて、まもなく100歳になる。現在、松江市内の老人保健施設ですごしている。要介護度5で、数年前から視力も失っている。昨年には、松江市から、白寿のお祝いが届いた。普段は、松江市で司法書士・土地家屋調査士をしている、兄（松中68期）がみているのだが、時折、小生も松江に行き、見舞い・介護をおこなっている。

当初は、兄が自宅で看ていたのだが、だんだん悪くなり、典型的な老老介護となり、家庭では困難になり、介護療養型のあるH医院にお願いしていた。余談になるが、施設入所を検討するタイミングはいつか。一般的には、入所の時期は、老親の年齢ではなく、心身の状況ではかる。身体的な衰えで言えば「長期の寝たきり」、精神的衰えで言えば「高度のボケ」がいちばんの検討時期にあたるといわれる。

H医院では、生涯ここにおいてよいということ、特老がわりの感覚でお世話になっていた。ところが、今年4月の医療制度改正で、医療報酬が引き下げられ、とうていやっていけない、診療だけ続け、病床は廃止したいとの申し出があった。医療制度の改正は新聞やテレビで知っていたが、こんなに早く我が家に影響をもたらすとは、想定外のことであった。

紹介状（診療情報提供者）を書いてもらい、あちこちの病院・施設にお願いしてまわった。結局、受け入れてもらえたのは松江記念病院で、ここへ1週間検査入院して、その後、系列の老人保健施設「あけぼの」へ移り、当分そこで過ごすことになり、今日にいたっている。

転院作業は、兄と二人でおこなった。ベッドからベッドまで運んでくれる介護タクシー・寝台専用車を頼んだ。二人きて、患者を移動させてくれるのでたいそう便利である。20～30分の移動で、2800円だから、そう高いともいえない。車椅子の場合は、一人でくるとのことだ。介護保険が使えるかと思ったら、施設・家庭間は適用されるが、施設間は駄目とのことだった。

「あけぼの」への入所と告げられて、余命いくばくもない入所者にとっては、施設名はあけぼのよりも「たそがれ」のほうが、ふさわしいのではないかと一瞬思った。しかし、極楽への道への「あけぼの」と考えれば、素晴らしく、よりふさわしい名前といえなくもない。命名者の気持ちが忖度できて、うれしくおもわずあたたかいほのぼのとした気分になる。

それにしても昨年10月からの介護保険制度の改正で、負担増が直撃する高齢者や家族はもちろん、介護報酬が減らされる施設側からもため息がもれている。島根県内では、制度改正の対象となるのは、特別養護老人ホームと老人保健施設、介護療養型医療施設に入居する約7400人。全国一の高齢化率と、施設整備が他県より進んでいるため、県民が100人に1人の割合になるという。国の財政事情があるとは申せ、い

つお迎えがくるかわからず、介護者にとってはたいへんきびしい時代がやってきた感じである。

老人保険施設「あけぼの」は、制度上、いつまでもおれるところではない。特別養護老人ホームに入所を申し込んでいるが、2～3年かかるらしい。順番が来たときには間に合わなかったという話をよく聞くが、母もそうなるかも知れない。また、うまく入所できても、ここも終の棲家になるかということと必ずしもそうでもない。3カ月以上の病気をして、入院したりすると契約解除となるとのことだ。こうなると終の棲家はないというのが正しいのかもしれない。そのときそのとき最善の場所・施設を選び、生涯を終えるのがいちばんよさそうである。

読者諸賢の方で、松江近辺の特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、などに知人がおられれば、ご紹介いただければ幸甚である。そして、入所その他でなにかと便宜をはかっていたら、私ども家族を助けていただければ、たいそうありがたいことで、これにまさる喜びはありません。



## 松高11期4人組の ドイツ旅日記

(高11期)新谷勇人

松高昭和35年卒業(11期)の村尾俊治・新谷公子(10R)、田中一男・新谷勇人(11R)の4人は18年7月19日から8月1日までの14日間をかけてドイツに旅行しました。以下はその旅行記です。この旅行はツアーでなく、ガイドもなし。ひたすら4人でドイツを歩き回ろうという旅でした。

19日関空から空路フランクフルトを経て同日ベルリンに到着。ベルリン3泊、ドレスデン1泊、ワイマール1泊、フランクフルト2泊、パーデンバーデン2泊とここまではドイツ国鉄(DB)の2等旅。パーデンからはシュツットガルト(エスリング



ン)1泊、イスニー1泊、ミュンヘン1泊まではレンタカー。そして7月31日ミュンヘンを発って8月1日帰国しました。

田中君のお兄さんはドイツ人だったの？

7月20日。前日夜ベルリンに到着した翌日の実質初日。市内観光に出発。アムツォーにあるホテルから1時間半歩いてポツダ

ム広場へ。ソニーセンターで皆さんトイレを借りて一休み。更に炎天下をテクテク歩いてブランデンブルグ門へ。

写真(近畿双松会HPに掲載 以下HPと記します 編集部注)は広場で手回しオルガンのおじさんと(公子さん撮影)。左から村尾君、田中君、おじさん。このおじさん純粹のゲルマン族みたいだけど、田中君によく似ているね。それにしても田中君はいい男やとこの写真で気づきました。

ブランデンブルグ門のあたりでブラブラしていると、工事現場に筋骨たくましい兄弟の労働者がいました。チャタレーではないけれど、昔から女性は筋骨隆々がお好きなのでしょうか。早速公子さんは近づいて「写真撮らせて!」って。でも通じたのかな。(HP)

ドイツではやはりビール

ドイツで最初のランチ。当然ビールで乾パァイ。日本のビールは大部分ピルスナーですが、この旅行ではバイセンビールが好きになりました。でも写真のビールはまだピルスナーのようですね。

この後村尾・田中組は博物館島へ、新谷組は絵画館へ。この美術館にはフェルメー



ルが2枚ありました。そして何とこの旅行ではフェルメールを計5枚も見ることになりました。「フェルメールはもういいや」って気分になりました。フェルメール好きには叱られそうです。でも代わりにクラナッハって画家が好きになりました。インターネットでどんな画家か引いて下さい。貴方も好きになりますよ。

旅はトラムに乗って

ベルリン観光2日目はベルリンから近郊のポツダムへ。ターゲスカルテ(1日フリー切符:6ユーロ)を買って出発。このターゲスカルテが実に便利。バスでも電車でも地下鉄でも何だってフリー、フリー、フリー。ポツダムまではSバーン(近郊電車)で25分。ところが爆弾騒ぎか、何かが発射したのか、ともかく2駅手前でストップ。例えて言えば、大阪から新快速で京都に向かったところ、事故のため高槻駅で降ろされた、って感じです。とても歩ける距離じゃありません。

ドイツ人は総じて英語が苦手みたい。こちらはドイツ語も苦手。でもポツダムまでは行かなければなりません。仕方なく身振り・手振りを混ぜながらでも前進、前進また前進。

まず降ろされた駅で推測と憶測とを重ねてトラム(市内電車)に乗った((HP)写真1窓際の女性は公子さん、その隣が新谷、後(手前)が村尾君、撮影は田中君)。客に教えられた停留所で下車しておっかなびっくりでバスに。ようやく目的のポツダムはサンスーシに着きました((HP)写真2)。

ここを見学してからまたバスに乗って、

私どもには懐かしいポツダム宣言が出たツェツィーリエンホーフ宮殿(アー舌噛みそう)を見物。昼飯を食ってビールを飲んで帰途へ。

私には知恵はない。仕方なしにぼんやり歩いていると、誰かが怒鳴った(らしい、何しろドイツ語は分からない)。ビックリしてよく見ると、何と火事場に入り込んでいるじゃありませんか。しかもはしご車が出ている。凄い凄いとつい見入っちゃった。((HP)写真は田中氏撮影)その間村尾君らは必死に情報を集めた。その結果は「800メートル下ったところにトラムの乗り場があるらしい」「そこで3両連結でくるトラムに乗って終点で降りる」「終点では905番のバスに乗ればSバーンの駅に出る(らしい)」というもの。

火事場を離れた小生は「ほんまかいな、そんな曖昧な情報でベルリンに帰れるんかよ?」とは思ったが、黙っていた。だって夜9時まで明るいのです、時間はたっぷりあるのですから。

おそろおそろ行くと確かに3両転結のトラムが来た! その終点でしばらく待つと905番のバスが来た。それに乗ったら駅の名は知らないけれど、ともかくSバーンに出た。ヤレヤレと無事にベルリンへ。フリー切符で全部がフリーでした。明日はドレスデンです。

悲劇のドレスデンへ

写真はベルリン中央駅にて田中さん撮影((HP)。7月22日朝7時42分EC171は静かにベルリン中央駅を離れ一路ドレスデンへ。ともかくここから列車旅が始まります。



聖母教会

ジャーマンレールパスもこのときが初日。ヨーロッパの鉄道旅にはトーマスクックという時刻表が必携品。これはヨ

ーロッパ全部の鉄道時刻表をコンパクトにまとめたものですが、それだけに「解説」が大変です。今回は全て公子さんが調べ上げて作った計画で走りました。

田中さんが数独で国際交流を果たしたのはこの列車だったかしら。約2時間余の後、列車はドレスデン中央駅に到着。ホテルに荷物を置いてからここでも市電に乗って市内の概況を偵察しました。

聖母教会(フロイエンキルヒェ 写真上)中央のドームは聖母教会。1945年の大空襲でヨーロッパの真珠と呼ばれた古都は一夜で瓦礫の山となり、ドレスデンは日本の広島のような存在となりました。原爆ドームに相当するのはこの聖母教会です。瓦礫を集めて昨年復元されたもの。その下に見える2階建てみたいな建物は我々が宿泊したヒルトン。実は下が隠れており4階建。手前の川は「エルベの邂逅」(世界史の教科書に写真が載ってたでしょ、あれです)。

写真左(HP)はエルベ川での観光パラセーリング(撮影は公子氏)。怖そうだから乗りたいとは思わなかった。でも数日後にバーデンバーデンで熱気球体験をしてからは、「あれにも乗ればよかった」と後悔

しました。

### 何処でも寿司パック

今回の旅行では、あちこちの都市の駅や街頭で寿司パックを売っていました。そう、鉄火やカッパ巻きや稲荷です。味もまーまーですから日本人には朗報です。

### 魔女のサッカー

ホテルは「ブリュールのテラス」というエルベ川沿いの名所にありました。土曜日でしたが夕方が近づくにつれ沢山の屋台が出て、人が集まり、大賑わい。何かお祭りらしいけど、分かりません。そうそう、ブタの頭から尻に串を刺した丸焼きもやっていたな。漫画でなく実物を見たのは初めてでした。今思えば試食すれば良かった。

エルベ川にかかる橋はホコ天になっており、丁度竹馬に乗った魔女が大きなボールと箒を使ったサッカーをしていました。よく見ると女装でしたから、魔女とは言えないか!((HP)撮影は公子さん)

### アルテマイスター

田中・村尾組はツインガー宮殿の武具館に。新谷組はアルテマイスター(美術館)へ。ここでもフェルメールを2枚見ました。大事にされていて、壁一面を小さなフェルメールが占拠していました。このときクラナハ展をしていました。よく知らなかったので、何となく気持ちワリィ絵だと素通りしました。しかし翌日ワイマールにてヘルダー教会の祭壇画(クラナハ作)を見て、衝撃を受けましたね。それ以後インターネットで色々見て、クラナハにハマりそうな

私です。

### 熱気球体験

ドレスデンの後は、ワイマールを経てフランクフルトに2泊。更にバーデンバーデンで2泊。

7月27日早朝近くの牧場にて熱気球体験が公子さんの要望で実現。黒い森（シュバルツバルト）を上から見ながら、風に乗ってフランスに着陸、などと考えていたようです。風が逆で結果はドイツ側への飛行となりました。

写真はイザ出発の記念写真、撮影は公子さん。立っているのは勇人その隣が村尾君。田中君は？ 居ないね、どうしたんだろう。熱気球体験は、広げて膨らますところから手伝うことから始まる（（HP）写真下）。

ゴーゴとパーナーが吼えて炎を吹き込むと段々気球が膨らみ、やがてポッカーリと……

飛行は約1時間半、高度は15～500メートルを上がったたり、下がったり。時には木の枝に触れそうになったり、どっこいしょと高压線を越えたり……。

丁度出勤・登校時（夏休みはないのかな）で、自転車で走る女子高生や駅で電車を待つOLに「モルゲン」（おはよう）と叫ぶと手を振ってくれる。恐怖感は全くない、そんな体験でした。料金は約3万円強。

写真下（HP）は膨らんだ気球。左の男女は村尾君と公子さん。

バーデンからはレンタカーの予定でした。ところが日本で予約していた大きめのワゴンが配車なし。大きめでないとバッグ



天皇の御料車を前に

4人分が乗らないのです。泡を食って色々折衝するも駄目。とりあえず大型タクシーでバーデンからシュツットガルトへ。約2時間、3万円。（帰国後抗議した結果、タクシー代の1.5倍の賠償金を受け取りました）

### ベンツ博物館と天皇の御料車

7月28日シュツットガルトではベンツ博物館を見学。時速600キロのスポーツカーなど。愛好家には楽しみでしょう。

入場時に係の女性が「あなた方は60歳以上ではないか」と言ってくれ料金は半額となりました。一目で60代と見破られたのは残念無念。

写真は博物館に展示されている日本の天皇の御料車。菊の紋章も付き、塗装はまるで漆塗りみたいでした。何でこんな車がここにあるのかは不明。写真左は石原さんという現地会計事務所の人。

### 自動車旅行へ

この日（7月28日）は近くのエスリングゲンに宿泊。村尾君の努力でようやく自動車が手に入り、翌29日からは待望の自動車旅。

アウトバーンを飛ばし、まずホーエンツ

オレレン城見学。これが凄い。ノイッシュバンシュタイン以上という村尾君の説明も宜なるかな。写真をお見せしたいのですが、全体を写したのがありません、絵はがき(HP)で失礼します。このお城は500メートル位の山の天辺に建てられています。

写真(HP)はアウトバーンのPAでのスナップ。左から勇人、公子、村尾君、撮影が田中君。

### 通りすがりのガストハウス

街道を自動車で走り、日暮れとともに宿屋(ガストハウス)を探す。窓に花を飾っているのが宿屋と聞き、良さそうな建物に「泊めて」と頼み、「うちは宿屋でない」と言われたり、建物は良さそうだが、牧場が近くて臭かったり、3軒目でようやく泊まれるガストハウスを見つけた。夕食を取り、外に出ると意外に良い街でした。街の名はイズニー。日本で言えば偶然泊まった街が馬籠だったという感じが。写真(HP)は夕食後の散歩風景。1泊朝食付きで一人4,500円。

### ミュンヘンの夜・明日は日本へ

7月30日、イズニーを出てノイッシュバンシュタインを見て午後ミュンヘン着。運転は全部村尾君のお世話になりました。明日はいよいよ帰国です。そこで夜はミュンヘンの街へ繰り出した。お目当ては、ヒトラーナチスが何度も集会を開いたというピアホールホーフプロイハウス。途中村尾君、提灯を見て急に気が変わり、先に日本料理で腹ごしらえをと「庄屋」(HP)に入る。

### 日本料理屋のカップル

この日本料理屋の隣のテーブルのカップル。近いうちに日本に行くと言っていたか、行きたいと言ったか、とにかくここでも村尾君、直ぐ友達になった。彼の凄い特技。((HP)後ろの料理写真は鉄火丼外)

この夜のホテルはメリディアンで、5。朝食にはご飯があった。

### 爆発する中国

今回の旅行では、東洋系の顔立ち集団の5割は中国、3割は韓国、残りが日本、という印象でした。中国は世界の工場としてお金を集め、人間は世界に向けて爆発的に拡散させている、そんな感じでした。

### 数独の流行

バーデンのホテルで、エレベータに乗り合わせた老婦人が私を指さして、[SUDOKU, SUDOKU]という。しばらくして数独だと分かった。多分「お前は数独の国から来たのか(=日本人か)」と言ったのでしょう。田中君は列車の中でドイツ人父子と数独で交流。数独は大流行のようです。昔の柔道がそうだったように、日本人を見たら数独の達人と思うみたいです。これから出かける方は練習して下さい。

カラー写真は、近畿双松会ホームページをご覧ください

<http://www.kinki-soushoukai.org/>

## おたより

松中60期木村彦二様より

本日、近畿双松会報（平成17年会報）をお送りくださりまして有難うございました。

会員名簿や島根県の地図、島根の市町村合併地図等いろいろと有難うございました。

ご多忙中、本当に有難うございました。

厚く御礼申し上げます。

実は私、第60期（昭和15年卒）で83歳でございます。なつかしく読まして戴きました。

同窓の景山章様もお元気の様子でございますね。

一緒に漕艇部で活躍した一人でございます。

私、安来町（現在は市）から1年の時は汽車通学で（当時は大橋川に橋は一つしかありませんでした）、松江の駅から赤山まで歩きましたし、2・3年は寄宿舎、4・5年は北堀町の城見縄手のラフカディオ・ハーン（小泉八雲）記念会館横の杉本（方）さんの二階で下宿をした思い出があります。

寄宿舎の舎監は横田先生（アダナYさん）にお世話になりました。

勉強もせず漕艇部（赤山を下りてすぐ、県知事友舎（前）が艇庫で当時に艇が二杯（大空号、青空号）でございました）2年から5年までボートを漕ぎ、山陰大会で米子中学に（久方ぶり）勝ち（6艇身の大差）、大橋川で2100メートルのコースでございまして、宍道湖、嫁ヶ島、大根島、恵曇等までよく漕いだことも思い出でございます。

そして、琵琶湖での全国大会にも行きました。お送りしていただいた資料の写真を見てなつかしく思っております。

現在満83歳で歩行困難でございますが、80歳の年末に胸の病気をしてまたなりましたが、近畿双松会にも出席できず残念でございます。

健康な時はよく近畿の双松会にも出席し、皆様とお話をしました。どうぞ皆様方にもよろしくお伝えくださいませ。

58期の先輩のお名前を一部知っております。よくお世話になりました。

島根県、松江市、赤山中学などは私の思い出の場所でございます。

当時は岡校長先生で質実剛健の精神の名実共に第一中学校でございましたし、遠くは朝鮮の馬山から同窓会が来ておりました。中学生（旧）は、松江（旧）高校の真似をしてボクリ（高下駄）で市内を歩き、四名おればストームをやったものです。（背を組み合い輪になって市の最中でよくやったことを 当時、松江市民の方は、学生のやったことだと大体のことは見て見ぬふりをしてくれました。交番の巡査長も思い出します）

島根県、松江は私の第二の故郷でございます。

いろいろな思い出の松江、ただなつかしく思います。

乱筆でお許しくだけませ。貴誌が益々続き、発展するようお祈り申し上げます。

木村様、ご丁寧なお手紙を賜り、ありがとうございます。（近畿双松会報編集担当）

## ◆◆◆◆ クラス会便り ◆◆◆◆

### 八十翁達の集い.....六一会

「平成18年10月12日」。そぞろ秋風も感じられるこの日、旧制松江中学61期生4人の集いが、全日空ホテル6階の「雲海」で開かれた。一見したところ、集まった4人はみな「元気」。しかし、児玉84歳を筆頭にあとの3人（菊田光男、野々内善夫、中村悦夫）も82・3歳。さしずめ晩秋に相応しい老菊の集いとでもいいたい面々。それでもヤーヤー、オイ、オイと先を争っての意見陳述の応酬は昭和16年卒業とは思えぬ久闊を取り戻す活力溢れる小さな“同窓会”であった。

それでも同期の在阪組も一人減り、二人減りで周囲を思い返せば心淋しい思いも無きにしもあらずであるが、そんな感傷を吹き飛ばす童心に近い友達の集いが持てたことは、残り少ない人生の大いなる糧となった一日であった。

話題は政治、経済、社会と大きな課題から日常生活までと、聊か得手勝手な自論の応酬に始まり、果ては郷土や母校の思い出などに拡がり、「安来とは安きに来たり」から名付けられたものとか、出雲郷は「アダカエ」と読むのだと、80余歳にしてはじめて知る知識もあり、まさに「元気を頂いた同窓の集い」だったと感謝をしたい。

（松中61期）児玉治利



左より 中村悦夫、児玉治利、野々内善夫、菊田光男

## 双松 68 期同窓会

とき 平成 18 年 6 月 8 日  
 ところ 松江市宍道湖岸、一畑ホテル  
 須衛都久神社（喜寿健康祈願）  
 （近畿からの参加者）  
 青戸元也君、並河和夫君、長谷川吉雄君

### 会次第

司会 安部 英治幹事  
 挨拶 内藤明会長  
 会員スピーチ

現役組は数名。ほとんどは引退、共通の悩みは老いと健康なり。老いとは限りない成熟なりという。また、老いとは病気ではなく自然現象ともいう。共通した健康への執着は各々に味わい深く共感できる披露であった。

### 宴会

乾盃の音頭と共に多くの談笑のうずが会場に広がっていった。共通する悩みも気安さから心底から打ちとけ合いのときが過ぎていった。宴も進みラストは年末への再会を期し、恒例の「赤山健児」の大合唱が響き渡っていった。

### 松江市の姿

松江市は合併により東は美保関、西は宍道まで人口は約 20 万人の都市となった。地図を見ると奥は日本海、左右に中海、宍道湖を抱え、ちょうど八岐の大蛇の東部の姿となり松江市街はのど元にあたる。

松江市のシンボル宍道湖の水面に浮かぶ独特の“風情”と“気”。今も昔と変わらぬ趣である。その松江を遠くに望む好ポイントは西の方、玉湯の布志名あたりからであり、まさに絶景の一つであろう。

（松中 68 期）小豆澤 功



最後列左より 永海 岩田 原（敏） 石橋 渡部  
 4 列左より 角田 原（正） 本田 福田 永井 藤田 青戸 永塚 山本（和）  
 3 列左より 湯浅 古曳 野津 久保田 福島 荒銀 伊藤 加藤 入江 安部  
 2 列左より 岩橋 多々納 千葉 並河（健） 佐藤 柴田 坂本 大塚 三宅 黒田 山本（泰）  
 前列左より 小村 佐和田 鈴木 高井 内藤 並河（和） 長谷川 城代 江田 景山

## 松高7期50周年記念同窓会によせて



松江高校7期 卒業50周年記念同窓会 (ホテル一畑・平成18年5月18日)

松高を卒業してから50回目の同窓会を開くという通知を見てまず、脳裏に浮かんだことは、なにより50年前、31年3月卒業式が終わったその夜、バスケットボール部の親友・赤木豊君と二人で松江駅ホームいっぱいの友人達に見送られ、夜行列車で大阪に向かったときの様子であります。以来50年間、いろいろと思いをめぐらせながら友達に会えることを楽しみにしておりました。当初は、出発のときを思い出し、帰るのを列車にしようと考えておりましたが、今はバスが便利で楽だからといわれ、バスにしました。

当日の朝、岡田清さん、村岡公子さんと三人誘い合って大阪梅田のバス乗り場に行ったところ、小川勉君、塚尾由己子さん(旧姓桑原さん)達と一緒にになり、バスの中の3時間はもう同窓会の前夜祭の旅となりました。ホテル一畑の会場に入って、ま

ず、驚いたことが参加人数が予想以上に多いことでした。これはお世話いただいた方々のご苦勞がもったろうが、やはり、思いは皆同じ、50年の節目、もうこれが、一同に会する最後の機会だろうとの思いからこの人数になったのでしょうか。

この機会に参加してほんとうによかったとつくづく思ったのは小生一人ではないでしょう。大阪出発前からの友人達との再会、松江北高校卒業以来一度も会えなかった友々の50年振りの再会ができ、実に懐かしく、嬉しい思い出になりました。

僕は今回参加したことは、久し振りの再会を喜び合っただけでなく、「よし、これからは元気でがんばろう」という活力が出て来たように思います。

大阪に帰って、何人の人と話げできたかと名簿を見ながら数えたのですが、参加者160余名中、わずか20数名の方としか話し

ておらず、この点が悔やまれてなりません。また、今思い出しても吹き出しそうな面白いエピソードもあったけれど、これを披露するとMさんにお叱りを受けることになるので報告できないのが残念です。

翌日、岡田君と二人で帰阪すべく、駅前のバス乗り場に行ったところ、今度はパツタリと小学校で3年間同クラスだった内藤節子さん（旧姓宅和さん）とも会いましたが、同窓会会場では歓談ができなかったが、車中小学校時代の恩師をはじめ、当時の友の思い出、話が尽きず大阪に着いてしまいました。行きと同じく帰りも同窓会の2次会でした。ともかく、今回の50周年同窓会に参加して痛感したことは、長い人生の中でお金で買えないもの程、大切なものはないということでした。

未筆ながら、この度、会のため、お世話いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

俳優、藤田まことが歌っている「友……そして人生」という歌をご存知でしょうか。歌の一節です。

「よき友の 暖かな温もりが心にいつも溢れている」

「明日から もう一度 歩いてみよう 愛する人達とともに」

小生がこの歌を始めて聞いたのは64～65歳のころでしたが、歌詞の中にも「60余年……」という文句もあり、まさにこれは我々の年代の歌です。この曲はある企業のイメージソングですが、これを聞く度、これまでの様々なことが頭に浮かび、ジーンと来るものがあります。

そして今、大阪で多くのよき友に囲まれ、元気を貰い、その有り難さを感じています。

（松高7期） 小原弘幸



松江高校7期ゴルフ会（島根ゴルフ倶楽部・平成18年5月18日）

## 松高11期関西同窓会



全員で記念写真



嵯峨野散策



ゴルフコンペ

老年人（65歳）入りを記念して（?）、  
関西同窓会を6月1日パナヒルズ大阪で開催しました。

松江方面から14名、関東から3名、広島

から1名を含め40名の参加がありました。

翌日はゴルフ組は三木よかわC.Cで第2  
回コンペ、観光組は京都嵯峨野散策を楽し  
みました。写真をご覧ください。

カラー写真は、近畿双松会ホームページを  
ご覧ください

<http://www.kinki-soushoukai.org/>

## 北高4期(高校16期)2006年度 近畿地区同窓会



本年度の北4 = 高16期の同窓会を、5月14日(日)正午から、大阪市北区にある「diningIOR?I event space雲州堂」で開催した。

雲州堂は、江戸時代からの「雲州算盤」の大阪の問屋の建物・土蔵が戦災を免れて今も残っており、アンティークな雰囲気です。食事を楽しむコーナー(家族連れに適切)と、昔のままの土蔵土間をつかったイベントスペースがあり、創作ヘルシー料理もおいしく、酒もすすむ新鮮な感じの同窓会となった。

出席者は前列右から山田(矢壁)敬子、土田和男、三成宏二、後列右から井上伸久、車野巧悦、梅木隆志、大谷英之、松本耕司と、早退でこの写真には入っていないが都田艶子の9名。

直前にいろいろ事情があって出席者が減ったのが残念だったが、還暦を迎えて女性

を中心(?)に増加の気配もどうかえ、地道に毎年続けていきたいと考えている。

宴のあとは同好の士が残り、山田敬子さんのお店「ラサ」で歌い放題となったが、守秘義務もありその写真はご勘弁いただきたい。

なお、「雲州堂」は一度ご利用の価値ありにて下記にご紹介する。

530-0046 北区菅原町7-2

TEL 06-6361-3964

(最寄り駅・北浜&南森町)

URL: [info@iori-unshudo.com](mailto:info@iori-unshudo.com)

「ラサ」の連絡先は下記のとおり。

06-6341-0403 (梅新交差点南西、最寄り駅・北新地)

(文: 松本 耕司)

カラー写真は、近畿双松会ホームページをご覧ください

<http://www.kinki-soushoukai.org/>

## 松江北高 16 期還暦同窓会



昭和21～22年生まれの16期（北高卒業では4期目……入学時9組451名）は、今年還暦を迎え、去る7月15日（土）松江で学年全体の還暦同窓会を開催した。

松江では金平憲同期会会長のもと1年前から幹事会を組織し、50名近い尋ね人の調査を含め準備をすすめてきたが、当日は、お盆の時期をはずれている割には丁度100名の参加があり、和気あいあいのうちお互いの還暦と無事を祝いあった。

この拙文は、当日のメモ程度のものであるが、これから還暦を迎えられる後輩の皆様のご参考になれば幸いと思い、あえて寄稿させていただいた。

### 1. ゴルフコンペ：7:30 スタート

（於：玉造温泉カントリー）

参加：20名 優勝（ダブルペリア）：木村隆司氏 グロス85

### 2. 還暦厄払い：16：30 集合

賣布神社（新大橋南詰）

出雲国風土記に登場する古社で、「めふ」とは海藻や草木の豊かに生育している様子をあらわし、13世紀に現在の地に、その後は水郷松江の産土神として鎮座してきた歴史を有している。

そんなことは露知らず、同期の善男善女45名が集合、青戸宮司さんの有り難いお払いと祝詞をいただいて心身の穢れを払い落とした。いただいた賣布神社のお守りは「御塩守（塩ひと袋）」であり、日本中の「塩」の成分を比較分析した結果、「塩の精」が最も優れている伊豆大島から取り寄せたものであるとのご説明を受け、有難く頂戴した。

ちなみに、お守りの「お塩」を家庭での料理につかっているものかを青戸宮司さんにお聞きしたら、「体内から浄める」とも考えられ、ご自由にどうぞとのご託宣であった。

賣布神社のHP :

<http://www.shinbutsu.jp/?ID=42>

3. 還暦同窓会 : 18 : 30 開始  
( 於 : 松江東急イン 駅前 )

参加者 : 100名。

( 内、近畿からの参加者は中山ゆきよ [ 1R ]、森光雄、山田敬子 [ 3R ]、森藤哲章 [ 5R ]、梅木隆志、萩田治、田中由美子 [ 6R ]、森川葉子 [ 7R ]、松本耕司、西村幸子 [ 9R ] の10名)

松江北高の威風堂々たる校章旗、校歌旗が正面演壇を飾る中、金平会長の開会挨拶に続き、ご来賓であり、先輩であり、恩師である現双松会長の松本幹彦先生のご祝詞をいただいた。高校1期の松本先生が我々が入学した頃には、まだ30歳になられたばかりの若さであったことをお聞きし会場がどよめく中、先生の温顔慈話に感激・感謝の念を新たにした。

続いて、同期で物故された方々17名のお名前が読み上げられ、あまりの早い別れに全員でひたすら黙祷の誠を捧げた。

その後はルームごとに別れたテーブルでの歓談。その若さ、意気軒昂さに本当に還暦はまだまだ子どもなのかもしれないとあらためて実感した。

クライマックスの余興は、隠岐・知夫村出身の西谷信幸氏が西谷氏を親方と呼ぶ社中の方々(正式名不明)を引き連れての「しげさ節と皿踊り」の披露で、本場の歌(喉?)、三味、踊りにヤンヤの大喝采が飛んだ。

締めは、校歌「山脈浮かびて」の大合唱でおおいに若き血潮をたぎらせ、そのあと

は、校章旗・校歌旗の前でのルーム別のなだれを打って記念撮影をして、ようやく一次会はおひらきとなった。以上、全員怪我人ナシ。不祥事ナシ。

4. 同、二次会 : 開始時間不詳  
( 於 : 東急イン内ラウンジ )

ほとんど全員が残った二次会、楽しい様子は写真でご覧ください。解散時間不詳。

5. 同、三次会 : すべてが不詳。  
( 於 : 松江市内各所 )

卒業以来、大きな節目では必ず在松江の幹事が同期会を開催してくれてきたが、今年の還暦同窓会はさすがに格別の感慨があり、北高に学んだことを心から幸せに思ったひと夜であった。毎年開催をと言いたいところだが、学年全体の規模ではやはり5年後が妥当なところであろうか? それまでは健康でありたいと強く思った次第である。

余談であるが、何と我々の同窓会のあと、松江はご承知の梅雨の大雨でついには大橋川が溢れる騒ぎとなったが、今回はこんなことのないよう、皆、益々精進潔斎を重ねようと決意した筈であることを付け加えて、報告を終わらせていただく。

( 報告 : 北4=高16期 松本耕司 )

写真は、近畿双松会ホームページをご覧ください

<http://www.kinki-soushoukai.org/>

## ◆◆◆◆◆ 近畿双松会ホームページについて ◆◆◆◆◆

ホームページは随時更新中です。ぜひご覧ください。

URL アドレスは <http://www.kinki-soushoukai.org/> です。



会の活動をタイムリーにお知らせするほか、会員相互の交流の場となることを目指して、各期・クラスの情報提供や自由投稿など会員参加型のページ作りに力を入れていきたいと考えています。

ホームページについてのご意見・ご希望等がございましたらページ内のアイコンを使って事務局へメールをお寄せください。

なお、母校松江北高校のホームページは

<http://www.matsuekita.ed.jp/>

です。ぜひご覧下さい。



# 近畿双松会報告

平成18年11月26日

# ●●●●●● 近畿双松会 会則 ●●●●●●

## 第1条 名称

本会の名称を近畿双松会と称す。

## 第2条 会員資格

近畿地区に在住する旧制島根県立松江中学校、新制松江高等学校及び松江北高等学校の卒業生及び之に準ずる者の内、本会に入会を希望する者を会員とし、教職員であった者を特別会員とする。

なお、近畿以外の双松会員中、本会に入会を希望する者は上記に準じ入会を認める。但し、2年以上会費未納の会員に対しては、役員会の決議により、会員名簿より抹消することがある。

## 第3条 目的

会員相互の交誼、親睦を図り、母校の発展に寄与する。

## 第4条 役員

本会に下記の役員をおく。

1. 会長 1名
2. 副会長 若干名
3. 常任幹事 若干名
4. 幹事 各期 1名以上
5. 監事 2名
6. 常任顧問及び顧問 若干名

## 第5条

幹事は通常会員の中から、常任幹事は幹事の中から、副会長及び監事は常任幹事の中から会長が委嘱する。

## 第6条

会長は本会を代表し、その職務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。

監事は本会の会計を監査し、総会にその結果を報告する。

## 第7条

役員会は、常任顧問、会長、副会長、監事、常任幹事、幹事をもって構成し、会長が召集する。

役員会は役員を選出、予算案、決算案、規約の改正案等の作成および本会の運営にかかわる事項を処理する。

## 第8条

本会に役員会の推薦により顧問若干名をおくことができる。顧問は役員会の諮問に応じ、会務について意見を具申する。

## 第9条

役員の任期は2ヶ年とし、重任を妨げない。

## 第10条 総会

通常総会は原則として毎年11月に会長が召集する。

総会には役員を選出、予算、決算、会則の改正、その他の会務を報告し承認を受ける。

また、必要あるときは、役員会の議を経て会長は臨時総会を召集することができる。

## 附 則

### 1. 会長の選考について

1. 会長候補の選考については、顧問及び正副会長の合議によって決定する。
2. 会長候補については、役員会及び総会に報告し承認を受ける。

### 2. 本会則は平成12年11月20日より実施する。



# 会員数一覧表



## 期別会員数

平成17年11月23日現在

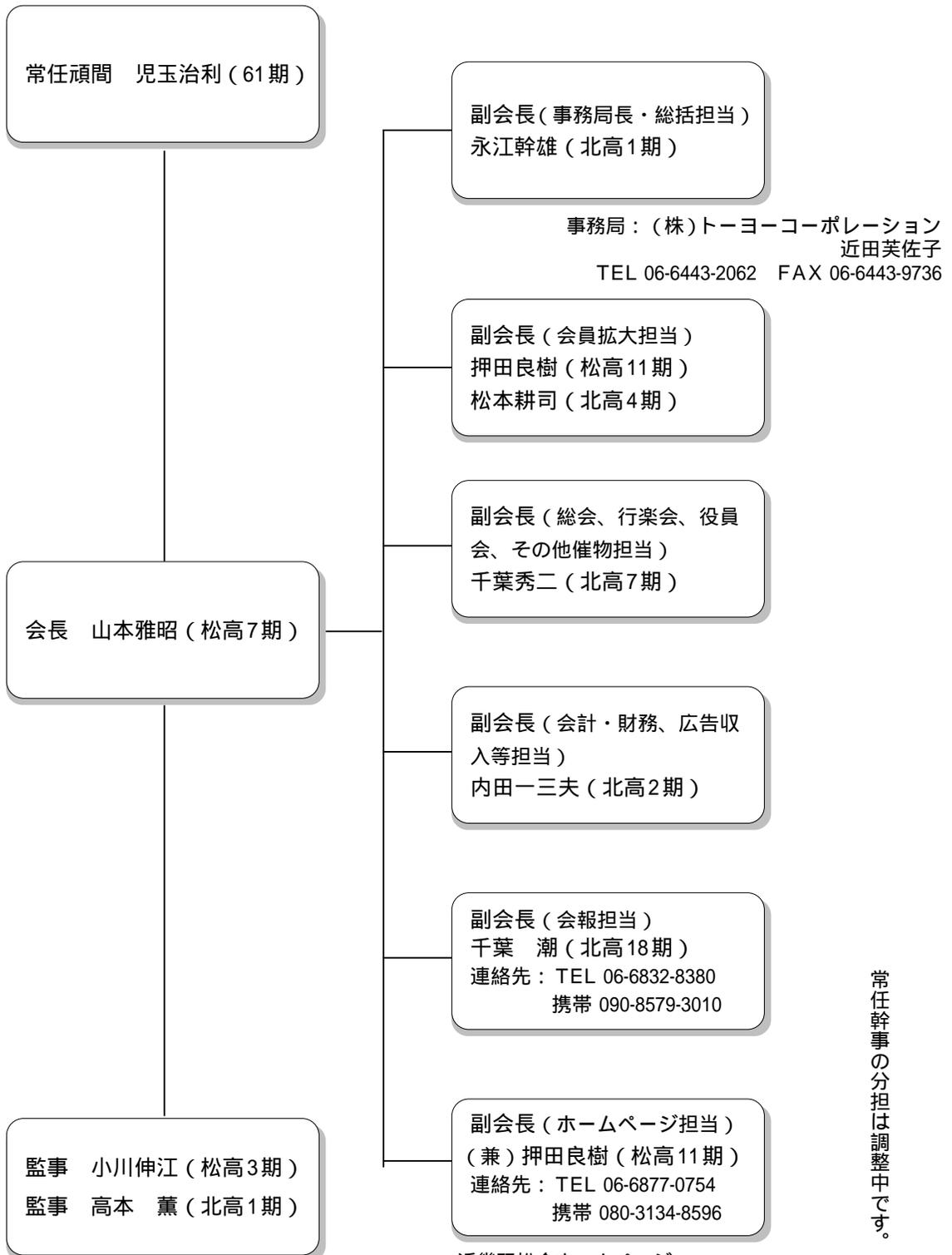
特別会員	2	松中49期	1	松高1期	20	北高1期	32
松江中学	69	松中50期	2	松高2期	28	北高2期	12
松江高校	206	松中51期	2	松高3期	8	北高3期	4
松江北高	155	松中52期	2	松高4期	4	北高4期	19
合計	432	松中53期	2	松高5期	26	北高5期	12
		松中54期	4	松高6期	10	北高6期	5
		松中55期	0	松高7期	38	北高7期	11
		松中56期	1	松高8期	9	北高8期	7
		松中57期	2	松高9期	21	北高9期	4
		松中58期	3	松高10期	9	北高10期	6
		松中59期	4	松高11期	25	北高11期	12
		松中60期	2	松高12期	8	北高12期	1
		松中61期	6			北高13期	0
		松中62期	2			北高14期	4
		松中63期	4			北高15期	2
		松中64期	3			北高16期	6
		松中65期	4			北高17期	3
		松中66期	10			北高18期	5
		松中67期	2			北高19期	2
		松中68期	9			北高20期	1
		松中69期	4			北高21期	2
						北高22期	0
						北高23期	3
						北高24期	2
						北高25期	0
						北高26期	0
						北高27期	0
						北高28期	0
						北高29期	0
						北高30期	0
						北高31期	0

●●●●●● 平成18年度役員(案) ●●●●●●

(平成18・11・26改選予定)

(役)	(期)	(氏名)	(役)	(期)	(氏名)
常任顧問	61期	児玉治利	常任幹事	松高11期	新谷勇人
会 長	松高7期	山本雅昭	常任幹事	松高12期	門脇州美
副会長	松高11期	押田良樹	幹 事	北高1期	森脇順子
副会長	北高1期	永江幹雄	幹 事	北高2期	加藤巡一
副会長	北高2期	内田一三夫	常任幹事	北高3期	金坂喜好
副会長	北高4期	松本耕司	幹 事	北高3期	安達和彦
副会長	北高7期	千葉秀二	幹 事	北高4期	梅木隆志
副会長	北高18期	千葉潮	幹 事	北高4期	土田和男
監 事	松高3期	小川伸江	幹 事	北高4期	三成宏二
監 事	北高1期	高本薫	幹 事	北高5期	山根律郎
幹 事	松中59期	平本澄夫	常任幹事	北高8期	渡辺悟
常任幹事	松中61期	菊田光男	幹 事	北高8期	三好資子
幹 事	松中62期	吉田祝雄	幹 事	北高10期	村田貢
幹 事	松中63期	園山徳道	幹 事	北高11期	松本潤
常任幹事	松中68期	青戸元也	幹 事	北高12期	岩間令道
幹 事	松中68期	荒銀昌治	常任幹事	北高14期	松村聡
常任幹事	松高1期	苅田運三郎	幹 事	北高14期	福岡則博
常任幹事	松高2期	向高博	常任幹事	北高17期	石橋敏幸
幹 事	松高2期	千葉新一	幹 事	北高17期	引野千嘉志
幹 事	松高3期	緒形公士	幹 事	北高19期	穴道弘志
幹 事	松高4期	須藤信幸	幹 事	北高19期	小林満
常任幹事	松高5期	山田稔	常任幹事	北高20期	門脇正一
幹 事	松高6期	田村稔久	幹 事	北高20期	藤本斉子
幹 事	松高6期	荒木夕三子	幹 事	北高21期	柳井利明
常任幹事	松高7期	廣政俣彦	幹 事	北高23期	池田康郎
幹 事	松高8期	松下昭壽	幹 事	北高23期	前田洋
幹 事	松高9期	木村八重子	幹 事	北高23期	富岡幸子
常任幹事	松高10期	佐和田丸	幹 事	北高24期	森口次郎
幹 事	松高10期	佐藤菁治			

# 近畿双松会組織（案）



常任幹事の分担は調整中です。

近畿双松会ホームページ  
<http://www.kinki-soushoukai.org/>

●●●●●●●●●● 平成18年度賛助金応募者ご芳名 ●●●●●●●●●●

平成18年9月30日現在

卒 期	氏 名	卒 期	氏 名
特別会員	八木 幸治		須藤 信之
松中50期	西山 要		和田 亮介
松中53期	築 勤		林原 信光
松中57期	中西 英紀		竹内 一郎
松中59期	後藤 由郎	松高2期	金坂 喜夫
	平本 澄夫		高内 章吾
	山本 洋		成合 茂博
松中60期	景山 章		神田 田鶴子
松中61期	中村 税夫		高田 修志
	野々内 善夫		藤原 美彦
	菊田 光男		石本 春枝
	児玉 治利		長崎 弘
松中62期	吉田 祝雄		千葉 新一
松中63期	坪倉 修吉		中島 啓補
	園山 徳道		竹森 英二
松中66期	伊藤 隆充	松高3期	佐藤 藤芳
	水野 堯之		竹内 天之
	内久保 晋一郎		永井 彰
松中68期	青戸 元也		小川 伸江
	吉岡 孝夫	松高5期	山田 稔
	長谷川 吉雄		松吉 孝明
	小豆澤 功		庄司 勉
松中69期	佐々木 忠夫		客野 伸
松高1期	杉原 信光		仁野 龍聖
	飯塚 満男		寺本 尚由
	苅田 運三郎		山本 達郎
	伊藤 雅義	松高6期	荒木 夕ミ子
	永松 良夫		園山 晋也
	宇藤 二男丸		田村 稔久
	二神 守		小笠原 美智子

卒 期	氏 名	卒 期	氏 名
松高6期	森岡 敏真	北高1期	深田 宏
松高7期	望月 修一		原 紀久子
	塚尾 由己子		高本 薫
	高井 和彦		持田 勲
	山本 雅昭	北高2期	内田 一三夫
松高8期	松下 昭壽		三島 幸子
	黒田 牧夫	北高3期	金坂 喜好
松高9期	吉田 裕	北高4期	松本 耕司
	澄川 光成		神田 俊之
	宋 智海		土田 和男
	木村 八重子	北高5期	江角 慎一
	熱田 光信		山口 悦子
	岩成 哲男	北高7期	千葉 秀二
	野津 政人	北高8期	江角 雅明
松高10期	松谷 純子		渡辺 悟
	佐藤 菁治		物種 慶子
	佐和田 丸		三好 資子
	面白 紘	北高14期	松村 聡
	鈴木 洋子		福間 則博
松高11期	新谷 勇人	北高19期	宍道 弘志
	神門 英明	北高21期	松本 幸子
	押田 良樹		
	村尾 俊治		
	畑田 稔	会員外	株式会社米吾
	光澤 伸夫		細田博之事務所
	小川 恵江		
松高12期	門脇 洲美		
北高1期	永江 幹雄		
	深澤 千栄子		
	神田 周平		

# ●●●●●●●● 平成17年度会計決算書 ●●●●●●●●

(平成17年10月1日～平成18年9月30日)

(単位：円)

収入の部	支出の部
前期繰越金 1,064,116	通信費 344,610
会費収入 667,000	事務費 159,761
賛助金収入 1,084,000	慶弔費 30,000
役員会会費収入 75,000	振込手数料 42,545
17年度総会会費収入 470,000	役員会議費 80,000
17年度行楽会会費収入 312,000	行楽会費用 409,495
郵便貯金利息 2	17年度総会費用 512,099
収入計 2,608,002	17年度会報作成費 861,250
	支出計 2,439,760
	次期繰越金 1,232,358
	内訳(郵貯定額) 0
	(郵貯振替) 931,100
	(郵貯普通) 300,050
	(現金) 1,208
総合計 3,672,118	総合計 3,672,118

上記の通り報告いたします。

副会長(事務局担当) 永江 幹雄 印

副会長(会計担当) 内田 一三夫 印

監査の結果、正確に処理・記帳されている事を認めます。

平成18年10月31日

監事 小川 伸江 印

監事 宇藤 二男丸 印

## 編集後記

本年も無事に近畿双松会報をお届けすることができました。

玉稿をお寄せいただいた皆様に、心からお礼を申し上げます。

行事報告に関しましてお詫びを申し上げます。今年の近畿双松会行楽会は、11月11日に「文楽観劇会」を行いました。会報の発行には記事が間に合わず、報告を掲載しておりません。会報次号にて報告させていただきます。

さて、今年の会報では、偶然松江に関連した記事が重なり、「ふるさと松江」として特集いたしました。また、松江を歌った「歌」の情報をいくつか佐和田丸様よりいただきました。この夏発表されたという「松江舟歌」を掲載しておりますので、どうぞお楽しみいただきたいと思います。

近畿双松会は、昨年からホームページ（HP）をリニューアルし、HPへの投稿も

増えてきました。HPに投稿された記事を、会報に再掲載しております。紙面ではページ数などの制約があって、十分に写真が載せられないのですが、HPでは写真もふんだんに、またカラーで見ることができますので、ぜひともアクセスしていただきたいと思えます。

昨年から、会員の名簿については、個人情報保護の観点より別冊としてお渡ししておりますので、この点についてはご了解いただきたく存じます。

会報編集担当では皆様のエッセイ、詩、短歌、俳句などのご投稿を心よりお待ちしております。

近畿双松会事務局に随時お送りいただければありがたく、どうぞよろしく願い申し上げます。

（会報編集担当：千葉 潮）

### 近畿双松会慶弔規定

本会員の慶弔に際しては、下の如く、本会の名において敬意を表することとする。

#### （一）慶祝の場合

- 一、個々の慶祝は不問とする。
- 一、特に必要ある場合は、会長、常任幹事協議の上適当に執行する。

#### （二）敬弔の場合

- 一、正会員の場合、一律五千円也の香料を供える。  
正会員とは、年間会費を納めあるものをいう。
- 一、その他の場合、会長、常任幹事に諮り、適宜敬弔を行う。

## 近畿双松会報 平成18年度 2006年 版(通巻48号)

発行日：平成18(2006)年11月26日

編集兼発行者：近畿双松会

発行所：近畿双松会事務局

所在地：〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-21-35

(株)トーヨーコーポレーション内

TEL 06-6443-2062 FAX 06-6443-9736

郵便振替口座：00910-0-103665

近畿双松会事務局

制作：アルゴ

印刷：(株)NPCコーポレーション

毎日新聞は言論の自由独立を確保し、  
真実敏速な報道と公正な世論の喚起を期する  
(毎日憲章の一部)



21世紀への指針

# 毎日新聞

毎日新聞大阪本社

大阪市北区梅田3-4-5  
TEL 06 (6345) 1551

社友  
見玉 治利 (61期)

接着一筋半世紀……

# ライフボンド

独自の技術で未来を拓く

優良企業認定法人

# 日栄化工株式会社

代表取締役会長 並河和夫 (松中68期)

本社：東大阪市荒本北193-1 TEL 06-6746-1741 (代表)  
東京支社：埼玉県川口市朝日5-8-3 TEL 048-227-3045 (代表)  
三重工場：三重県伊賀市寺田字前坂1348-1 TEL 0595-24-6773 (代表)



衆議院議員

細田博之

事務所  
電話 〇八五二(二二)六四五  
FAX 〇八五二(二二)六四五一  
松江市堂形町八八一

米吾左衛門寿し



米屋 吾左衛門(ござえもん) 寿し本舗

ホテルハーベストイン米子

株式会社 米吾

代表取締役会長

内田 健二郎

●米吾本社  
鳥取県米子市弥生町八-二七  
TEL (0859) 33-2221 (代)  
FAX (0859) 33-2226  
<http://www.komego.co.jp/>

●ホテル部  
TEL (0859) 31-1111 (代)  
FAX (0859) 33-2222

福岡法律事務所

弁護士 福岡 則博

松江北高 14 期 (昭和 50 年卒)

事務所：〒665-0845  
宝塚市栄町 2 丁目 2 番 1 号ソリオ 3 (5 階)  
TEL 0797-87-5606  
FAX 0797-87-7160  
<http://www.fukuma-law.com/>

医療法人  
坪倉産婦人科

理事長

坪倉 修吉  
(63 期)

院長

坪倉 省吾

〒五七八〇九四二  
東大阪市若江本町一-三-二二  
☎ (六七三三) 八五五八

ワンルーム・マンション

# 「グリーンハイツ小川」

松江市西茶町101

小川伸江 (松高3期)

管理委託先 不動産システム(株)

本社 松江市浜乃木2丁目5-18  
セントラルコート1F  
TEL 0852-31-3333

サティ店 松江市東朝日町151 松江サティ内  
TEL 0852-28-3333

ゴルフ練習場&ゴルフショップ

# ゴルフアベニュー松江

藤原美彦

(松高二期)

〒690-0011 松江市矢田町二四七-1

(国道九号線バイパス沿い)

電話 〇八五二(二一八) 〇〇三八

ファイナンシャル・プランナー

内田 一三夫

(北高2期)

垂水神社宮司

竹内 天之

(松高3期)

〒619-0237

吹田市垂水町一丁目二四六  
〇六(六三八四)一五二六

啓光印刷株式会社

代表取締役

竹内 一郎

(松高1期)

〒531-0071 大阪市北区豊崎一 七二一

リパティ91

TEL 〇六(六三七) 二六〇六

FAX 〇六(六三七) 六〇六二

常務取締役

深 田 宏

(北高1期)



株式会社 神鋼環境ソリューション

播磨製作所

〒675-0155

兵庫県加古郡播磨町新島19番地

TEL (0794) 36-2522

FAX (0794) 36-2506

E-mail:h.fukada@pantec.co.jp

竹 森 英 二

(松高2期)

〒五五〇六八四 吹田市山田西一 十五二  
TEL (06)六八七七 三六三九

毎日新聞 大阪本社

顧問 児玉 治利

(61期)

〒578-0972

東大阪市鴻池町一丁目六〇三五  
〇六(六七四四)八〇五〇

山 本

(59期) 洋

〒666-0112

川西市大和西三丁目二八番地の二  
〇七二(七九四)二七五二



山 本 達 郎

(松高5期卒)

加古川店/  
JR加古川駅前カビルそごうビル2F  
☎(0794) 22-5965  
23-0856

東加古川店/高砂店/土山店  
宝殿店/別府店/ジャスコ土山店  
平岡店

園山晋也税理士事務所

税理士 園山 晋也

(松高6期)

〒650-0022

神戸市中央区元町通四丁目六番二〇号  
ライオンズプラザ元町二〇七号  
☎〇七八三六一一五四一九  
FAX 〇七八三六一一五四一九

高 本

(北高1期) 薫

〒534-0024

大阪府都島区東野田町三十七十七  
〇六(六三三五)〇八九六

飯南はいいないのち彩る里飯南町

とんぼら 関西頓原会

会長 佐和田 丸  
(松高10期)



〒573-1182  
大阪府枚方市御殿山町11-33-610  
TEL・FAX 072-848-7417  
E-mail: malu122@nifty.com  
飯南町 http://www.iinan.jp/

松江事務所  
佐和田ひとし登記測量事務所  
〒690-0886  
松江市母衣町75(裁判所正門前)  
TEL 0852-27-1463 FAX 0852-27-8423  
背景は島根県民の森大万木山(おおよろぎさん)  
好眺望地は飯南町頓原のエルシードドライブイン

株式会社 明和

代表取締役会長

園 山 徳 道

(63期)

〒560-0056

豊中市宮山町二丁目三十一七  
〇六(六八五五)六五五三

新谷勇人法律事務所

弁護士

新谷 勇人

(松高11期)

〒5500041 大阪市北区天神橋三丁目5番4号

TEL 06 6888 0891

FAX 06 6888 0892

永江 幹雄  
(北高1期)

〒651-1212 神戸市北区筑紫が丘5-19-17  
TEL.078-583-4162

弁護士

西山 要

(昭和5年卒 松中50期)

〒6520082 西宮市仁川町六七五番

ビルサイド仁川501

レディスクラブ同

門脇州美	井狩美知子	石倉道子	小川伸江	今市佐恵
(松高12期)	(松高7期)	(松高3期)	(松高3期)	(松高2期)



自分史・歌集・句集・作品集・会報などの  
企画から出版まで、お手伝いいたします。

企画・編集・出版

編集・出版コーディネーター **アルゴ**

代表 千葉 潮 (北高18期)

info@argo-e.com

〒564-0062 吹田市垂水町3-17-1-405

TEL. 06-6337-5249 FAX. 06-6337-5248

ご贈答用品に…

お歳暮用品に…

お中元用品に…

創業天保年間  
海産物自家製造



<sup>え</sup> 恵 <sup>とも</sup> 曇 港

島根県八束郡鹿島町恵曇港

Tel.0852-82-0015/0056 Fax.0852-82-2700

(松高7期 山本 雅昭)